

Golf Special

取扱説明書

シバウラトラクター

GS-122

事務所用

64 松本



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、事故を引き起こすおそれがあります。お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、**シバウラトラクター**をお買い上げ頂きありがとうございました。
この取扱説明書は、トラクターの取り扱い方法と使用上の注意事項について記載
しています。

本製品をご使用いただく前にこの取扱説明書を良くお読み頂き、内容を理解して
正しくお使いください。

また、お読みになった後もこの取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて
てください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときはこの取扱説明書を本製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、速やかに当社の特約店・販売店・JAにご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1章 安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた特約店・販売店・JAへご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

説明記号の見方



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



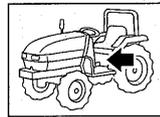
その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

[重要]

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]

作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。



説明箇所的位置と、見ている方向を示します。

●印:位置 ➡印:見ている方向

本製品の使用目的について

使用目的以外の作業や改造などは決してしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

目次

はじめに.....	1	7章 作業と調節のしかた.....	40
1章 安全な作業をするために 必ずお守りください	5	1. 作業機の降下速度調節のしかた.....	41
1. 運転(作業)する人について.....	5	2. デフロックの使いかた.....	41
2. 運転(作業)するトラクターについて.....	5	3. 後輪車輪幅(輪距)の調節のしかた.....	42
3. 運転するときの注意事項.....	6	4. 油圧外部の取り出しかた.....	42
4. 道路走行するときの注意事項.....	8	5. 外部電源について.....	43
5. 作業機を使用するときの注意事項.....	9	6. 3点リンクについて.....	44
6. 駐車・格納するときの注意事項.....	10	7. パワーステアリングについて.....	44
7. 点検・給油・整備するときの注意事項.....	11	8章 作業後の手入れと格納について...	45
8. 安全銘板の貼り付け位置.....	13	1. 作業後の手入れのしかた.....	45
2章 サービスと保証について	16	2. 長期間使用しない場合の手入れ.....	45
保証書は大切に保管してください.....	16	9章 点検・整備のしかた	46
アフターサービスをお受けになるときは.....	16	1. 定期点検について.....	46
3章 各部のなまえ	17	2. 廃油・不凍液処理について.....	46
1. 外観.....	17	3. 定期点検・整備一覧表.....	47
2. 運転操作部.....	18	4. 推奨オイル・グリス・不凍液一覧表.....	48
4章 各部のはたらきと使いかた	19	5. 給油・給水・一覧表.....	48
1. 運転操作部.....	19	6. ボンネットの開閉のしかた.....	49
2. パネル.....	26	7. 燃料の点検・補給のしかた.....	50
5章 運転前の準備	28	8. 燃料の空気(エア)抜きのしかた.....	50
1. 運転前の点検.....	28	9. エンジンオイルの点検・交換のしかた.....	51
2. 運転席周りの調節.....	30	10. エンジンオイルエレメントの交換のしかた.....	51
3. シートベルトの装着.....	31	11. 油水分離器の水抜き・清掃、 燃料フィルタエレメントの交換のしかた.....	52
6章 運転のしかた	32	12. ミッションオイルの点検・交換のしかた.....	52
1. ならし運転(最初の50時間)について.....	32	13. ラインフィルタ (ミッションオイルエレメント) の交換のしかた.....	53
2. エンジンの始動・停止のしかた.....	32	14. フロントアクスルオイルの 点検・交換のしかた.....	54
3. 発進・走行のしかた.....	35	15. 冷却水の点検・補給・交換のしかた.....	54
4. 変速のしかた.....	36	16. ラジエータスクリーンと エアクリーナエレメントの 掃除・交換のしかた.....	55
5. 停車・駐車のしかた.....	36	17. バッテリーの点検・整備のしかた.....	57
6. 道路走行のしかた.....	37	18. パイプ類の点検について.....	58
7. 坂道での運転のしかた.....	38	19. 電気配線の点検について.....	59
8. トラックへの積み・降ろしのしかた.....	38	20. グリスアップ(注入)について.....	59
		21. ブレーキの点検・調整のしかた.....	60
		22. クラッチの点検・調整のしかた.....	61

23. ハンドルの点検のしかた	61
24. 冷却ファンベルトの点検・調節のしかた	62
25. トーインの点検・調整のしかた	62
26. ヒューズ・スローブローヒューズの 点検・交換のしかた	63
27. タイヤおよび車輪の点検のしかた	64
28. 排気ガスの色について	64

10章 不調診断のしかた 65

1. 計器盤の異常表示と処置のしかた	65
2. 主な故障現象	65

11章 その他..... 67

1. 用語解説	67
2. トラクター仕様	68
3. 車速・PTO回転	69

配線図 折り込み

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
- ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む損害や事故、機械の破損が生じる場合があります。

1. 運転(作業)する人について

⚠ 注意

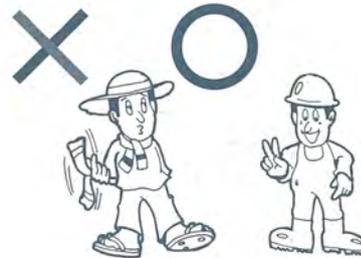
- トラクターおよび装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある安全銘板をよく読み、十分に理解してから運転してください。
- 取扱説明書および機械に貼り付けられた安全銘板の内容が理解できない人や子供には、絶対に運転させないでください。
- 体調が悪いとき、運転が未熟な人は、トラクターの運転をしないでください。
 - ・過労、病気、薬物、その他の影響により、運転に集中できない人。
 - ・お酒を飲んでいる人。
 - ・妊娠中の人。
 - ・睡眠不足の人。
 - ・18才未満の人。は、トラクターの運転をしないでください。



- 運転者および補助者は、運転(作業)に適した服装をしてください。

- ・だぶつきのない服(つなぎなど)を着用し、その口はきっちり止めてください。だぶつきのある服では、機械に巻き込まれたり、操縦装置に引っ掛かって事故の原因になります。
- ・滑り止めの付いた靴(安全靴など)を着用してください。滑り止めが付いていないと、滑って転倒するおそれがあります。
- ・ヘルメットを着用してください。

- ・はち巻き、首巻き、腰タオルをしないでください。タオルが機械に巻き込まれて事故の原因になります。



⚠ 注意

- トラクターや作業機を他人に貸すとき、または運転させるときは、事前に取扱方法や安全な使いかたをよく説明し、必ず取扱説明書を読ませてください。



2. 運転(作業)するトラクターについて

⚠ 注意

- 機械を使用する前には、必ず運転前(作業前)点検を行い、異常な箇所は整備してください。整備不良の機械を使用しますと、事故や故障の原因になります。
 - ・紛失したり損傷した部品は交換してください。
 - ・クラッチ・ブレーキ・ステアリングハンドルや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や破損している部品があれば交換してください。
 - ・ボルトやナットのゆるみがないか、定期的に点検してください。



警告

- トラクターは常に掃除しておいてください。バッテリー、配線、マフラー、エンジンの周辺部に、ゴミや燃料の付着があると火災の原因になります。



2010924

警告

- トラクターを改造しないでください。トラクターの性能・機能に影響を及ぼし、人身事故につながるおそれがあります。

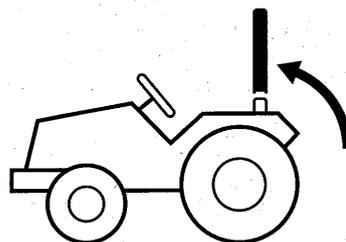


2010907

3. 運転するときの注意事項

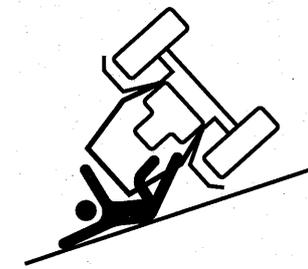
警告

- 運転するときは、シートベルトを常に装着してください。



A2019004

- ・運転するときは、必ず安全フレームを立てた状態にしてください。安全フレームを折りたたんだ状態では、万一トラクターが転倒したとき、安全フレームの役目を果たしません。
- ・安全フレームは、万一トラクターが転倒したときに事故の被害を軽減するものであり、転倒事故を防止するものではありません。
- ・安全フレームを取り外して運転しないでください。
- ・シートベルトは腰骨に当たるように締めてください。シートベルトを装着しないと、転倒・転落・追突事故を起こしたとき死亡や重傷を負うおそれがあります。



A2019005

- 納屋やハウスの出入りなどで安全フレームが当たる場合は、安全フレームを折りたたんでください。安全フレームを折りたたんだ状態では、絶対にシートベルトを装着しないでください。
- 安全フレームを折りたたんだり、立てたりするときは、平坦で安定した場所にトラクターを駐車し、作業機を接地させ、エンジンを停止して、駐車ブレーキを掛けてから行ってください。
- ・安全フレームを折りたたんだり立てたときは、必ずピンによって確実にロックされていることを確認してください。

警告

- 安全フレームを改造しないでください。安全フレームとしての機能をはたさなくなります。
- 安全フレームの強度に影響するような破損や曲がりが発生したときは、安全フレームを交換してください。修理をすると安全フレームとしての機能をはたさなくなります。
- エンジンを始動するときは、必ず運転席に座り、リバーサレバー・副変速レバー・PTO変速レバーが「N」位置にあるか、また駐車ブレーキが掛かっているか確認してください。トラクターが突然動き出し、転落や追突事故のおそれがあります。
 - ・ 地上に立った状態でエンジンの始動をすると、万一トラクターが動き出したとき、事故回避の動作ができません。
 - ・ ブースター端子や安全スイッチを直結して、エンジンを始動しないでください。トラクターが突然動き出すおそれがあります。
- エンジンの排ガスは有害です。倉庫や車庫などでエンジンを始動するときは、ドアや窓を開けて、換気を十分に行ってください。
 - ・ 閉めきった屋内や、換気が不十分な状態でエンジンを始動すると、排ガスによる中毒を起こし、死亡にいたるおそれがあります。
 - ・ エンジンの始動は、できるだけ風通しの良い屋外で行ってください。



A2019006

- 次のようなことを行う場合、安全のため各変速レバー（リバーサ・副変速・PTO）を必ずニュートラルにして、駐車ブレーキを掛けてください。
 - ・ 暖機運転を行うとき。
 - ・ 作業機の取り付け・取り外しを行うとき。
 - ・ エンジンを始動したままで、トラクタから離れるとき。

警告

- トラクターの始動や発進をするときは、トラクターの周囲の安全を確認してから行ってください。
 - ・ 周囲に人や障害物が無いか確認してください。特に、子供には注意してください。もし変速ギヤが入っていると、トラクターが動いたり、ロータリーが回転して事故を起すおそれがあります。



2010941

- ・ 安全フレームに当たる障害物がないか確認してください。

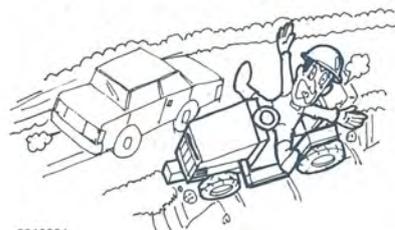
警告

- このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外の人を乗せないでください。



2010906

- 溝・穴の近くや路肩など、トラクターの重みで崩れるおそれがある場所では運転しないでください。
 - ・ 草の繁った場所や水たまりは、隠れて見えない窪地などがあるおそれがあります。トラクターが落ち込むと転倒するおそれがありますので、必ずトラクターから降りて確認してください。



2010931

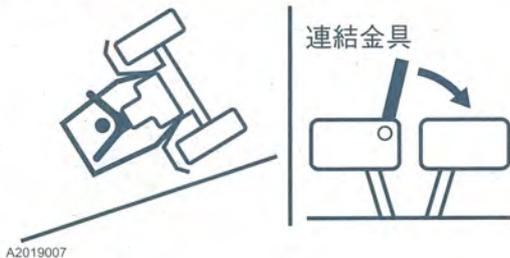
警告

- 溝やぬかるんだ場所からの脱出、急な坂を登るときは、後進で運転してください。前進で運転しますと、トラクターのバランスが崩れ、後方に転倒するおそれがあります。
- 共同で作業するときは、事前によく打ち合せし、作業中は声をかけあって、行なおうとしていることを知らせてください。



2010929

- ほ場の出入りで、急斜面の上り降りや溝越えをするときは、斜面や溝に対して直角に、低速で行ってください。
 - ・ 運転する前に、左右のブレーキの連結とデフロックの解除を必ず確認してください。



A2019007

- 高低差の大きい急斜面の上り降り、あぜ越え、段差の乗り越え、トラックへの積み・降ろしをするときは、アユミ板を使用してください。
 - ・ アユミ板は、段差の4倍以上の長さのものを使用してください。
 - ・ アユミ板は確実に固定し、低速で運転してください。



2010961A

警告

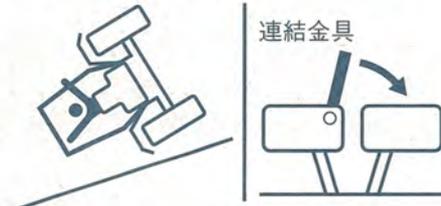
- トラックへの積み・降ろしをするときは、トラクターの前後に人を近づけないでください。障害事故をおこすおそれがあります。
- トラクターをほ場から出したときは、油圧ストップスローリターンバルブを油圧ストップ位置（作業機の降下速度が遅くなる方向にいっぱいまで回す）にして、作業機の落下防止をしてください。
- アユミ板の上、急な坂道、ほ場への出入り、畦の乗り越えなどでは、走行途中で変速しないでください。トラクターの重みで坂を下り、転倒・転落・追突事故をおこすおそれがあります。必ず、低速で運転してください。
- 道路走行、傾斜地作業、ローダ作業、前輪に重荷重がかかる作業では、「前輪倍速」および「オートブレーキ」運転をしないでください。旋回時に急旋回し、転倒や追突事故を起すおそれがあります。
 - ・ ほ場から出る前には、必ず「倍速」および「オートブレーキ」を切ってください。

4. 道路走行するときの注意事項

警告

- 公道を走行するときは、必ず作業機を取り外し、道路交通法規を守ってください。
 - ・ 公道では、作業機を装着したトラクターの走行は道路運送車両法違反になります。また、作業機を装着して走行すると、車・人・電柱などに引っ掛けて事故を起すおそれがあります。
 - ・ 公道を走行する場合は、運転免許証が必要です。必ず運転免許証を所持してください。（小型特殊・普通二輪小型限定・普通二輪・大型二輪・普通免許AT限定・普通免許・大型特殊免許・大型免許のいずれか）

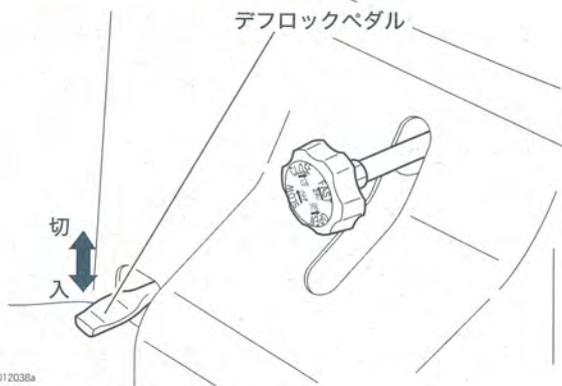
- 移動走行時は、左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。連結していないと、ブレーキ操作時にブレーキが片ぎし、トラクターの急旋回や転倒によって事故を起すおそれがあります。



A2019007

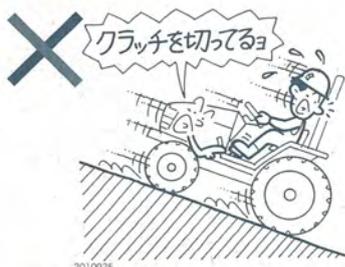
警告

- スピードの出し過ぎに注意し、慎重に運転してください。乱暴な運転をしますと、トラクターの転倒や追突事故のおそれがあります。
 - ・ 急発進や急停止は、絶対にしないでください。
 - ・ 旋回するときは、トラクターの速度を落してください。
 - ・ 坂道や凹凸道、カーブの多い場所では、トラクターの速度を落としてください。
- 道路走行時は、絶対にデフロックを使用しないでください。デフロックを使うと、思うようにハンドル操作ができなくなり、トラクターの転倒や追突事故のおそれがあります。



3012038a

- 坂道を降りるときは、クラッチを切ったり、副変速レバーやリバーサレバーを「N」(中立)位置にしての惰性走行はしないでください。転倒事故を起すおそれがあります。



2010935

5. 作業機を使用するときの注意事項

警告

- 作業機の着脱は、平坦で安全な場所で行ってください。
 - ・ 夜間に行う場合は、適切な照明を確保してください。
- トラクターを移動して作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。
- ロータリーなどPTO作業機の着脱、調整、掃除をするときは、作業機の回転が完全に止まるまで待ってください。



A2019008

- トラクターから降りるときは、ロータリーなどPTO作業機の回転が完全に止まってから行ってください。

注意

- PTO軸を使用しないときは、カバーを取り付けてください。カバーを付けないと、PTO軸に巻き込まれるおそれがあります。
 - ・ PTO軸カバーは常に取り付けておいてください。
- PTO作業機は、その作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると、作業機が異常作動し、人身事故や機械の破損の原因になります。



2010956

- トラクターの後部に重い作業機を装着したときは、フロントバンパーにフロントウェイトを取り付けてバランスを保ってください。前部が軽くなりすぎると、ハンドル操作が難しくなり転倒するおそれがあります。

警告

- トラクターに装着する作業機は、推奨されているものを使用してください。大きすぎたり、小さすぎたり、バランスの悪い作業機を装着しますと、人身事故や破損の原因になります。
 - バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。
 - けん引作業には、必ずドロバを使用してください。トップリックやロアリンクなどを使ってのけん引作業は絶対にしないでください。トラクターの転倒や破損の原因になります。
 - 傾斜地やけん引作業、フロントローダ作業では、トラクターの安定を良くするために、輪距(左右のタイヤ中心間の距離)を支障のない範囲で広くしてください。
 - 背の高い作業機(調整レバーを含む)を装着した場合や、ロータリー用アタッチメントを取り付けた場合には、作業機を最上げにすると作業機の調整レバーなどが干渉し、人身事故や機械の破損の原因となりますので下記の要領にて装着および操作をしてください。
 - トラクターに作業機上げ規制装置(上げ位置ダイヤル)がある場合
 - ・ 作業機を装着し、トラクター本体やキャビンに干渉しないように、上げ位置ダイヤルで上げ高さを規制してください。
 - ・ 上げ高さ設定時はエンジン回転を低速にし、ゆっくりと作業機をあげて上げ高さを設定してください。
 - トラクターに作業機上げ規制装置(上げ位置ダイヤル)がない場合
 - ・ 装着に際しては、トラクターのリフトリンクは下穴を使用し、上げ高さを規制してください。
(ユニバーサルジョイント装着作業機は、ユニバーサルジョイントが抜けない位置に取り付けてください。抜ける場合は、リフトリンク穴位置を上穴へ変更してください。)
 - ・ 作業機を昇降する場合は、作業機上下レバーで上げすぎないように注意しながら、ゆっくりと上げてください。
- ※注意：バック上昇などの自動装置は「切」にしてください。
- また、作業機昇降スイッチでの作業機の昇降はしないでください。
作業機上下レバーで操作しないと事故をおこすおそれがあります。

6. 駐車・格納するときの注意事項

危険

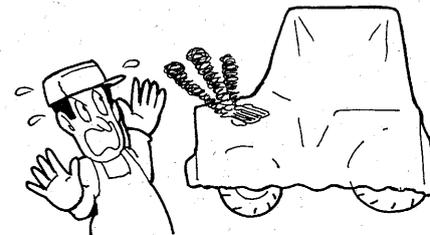
- トラクターを駐車するときは、平坦で安定した場所に止め、作業機を地面に接地させ、エンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、タイヤに車止めをしてください。
 - ・ PTO変速レバーは「N」(中立)、副変速レバーとリバーサレバーは「N」(中立)になっていることを確認してください。
 - ・ トラクターから離れるときは、必ずキーを抜いてください。
- 乾燥した草やワラなど、燃えやすいものが堆積した場所に、トラクターを駐車しないでください。堆積物に引火して、火災を起すおそれがあります。



A2065705

危険

- トラクターにシートを掛けるときは、マフラーやエンジンが十分冷えてから行ってください。過熱した状態でシートを掛けると、シートが引火して火災を起すおそれがあります。



2015451

7. 点検・給油・整備するときの注意事項

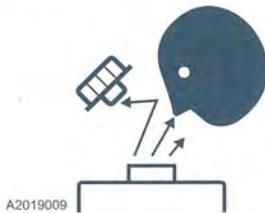
⚠ 注意

- 点検・給油・整備をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所にトラクターを駐車させ、トラクターの前輪には歯止めをしてください。
- ・ 作業機は地面に接地させ、PTO 変速レバーは「N」(中立)、副変速レバーとリバーサレバーは「N」(中立)にして、エンジンを停止し、駐車ブレーキを掛けてください。



⚠ 危険

- マフラー、エンジン、ラジエータなどが十分に冷めてから点検・給油・整備を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- ・ ラジエータが過熱しているときは、ラジエータキャップを絶対に外さないでください。熱湯が吹き出します。



⚠ 注意

- トラクターや作業機の点検・整備などで取り外したカバー類は、元通りに取り付けてください。取り外した状態で運転しますと、機械に巻き込まれるおそれがあります。



⚠ 危険

- 燃料補給やバッテリー充電をするときは、くわえタバコや裸火照明をしないでください。また、こぼれた燃料は、きれいに拭き取ってください。燃料に引火して、ヤケドや火災を起すおそれがあります。



- バッテリーの点検および取り外し時は、エンジンをかならず停止してください。
- バッテリーのハイドロメータの色が「透明」の状態のときは、補充電を絶対にしないでください。ハイドロメータが「透明」の状態で充電し、バッテリーを使用(放電・始動など)しますと、バッテリー内に火花が出て、バッテリー容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。
- バッテリーの排気穴は、ふさがないようにしてください。排気穴をふさぐと、バッテリー内部で発生するガスにより、バッテリーの内圧が上がり、破裂するおそれがあります。
- バッテリーを取り扱うときは、ショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーから発生する水素ガスに引火して、爆発するおそれがあります。
- バッテリーの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリーに入っている電解液(希硫酸)により、ヤケドや失明のおそれがあります。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

⚠ 注意

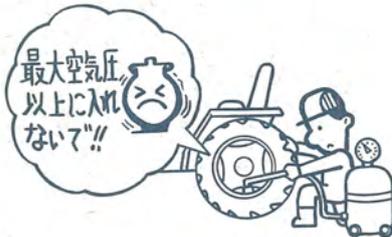
- バッテリーを、取り外すときは(-)側のケーブルから取り外し、取り付けるときは(+)側のケーブルを(+)側の端子に取り付けてください。守らないと、ショートによるヤケドや火災の原因になります。

警告

- 3点リンク作業機を上げた状態で点検・整備を行うときは、油圧ストップスローリターンバルブを油圧ストップ位置（作業機の降下速度が遅くなる方向にいっぱいまで回す）にして、作業機の落下防止をしてください。



- タイヤには、規定の標準空気圧以上に空気を入れないでください。空気を入れすぎると、タイヤが破裂し、死傷事故を起す原因になります。



- タイヤに傷があり、その傷がタイヤの糸（コード）に達しているときは、タイヤを交換してください。そのまま使用していると、タイヤが破裂し、死傷事故を起す原因になります。
- タイヤ、チューブ、リムなどの修理・交換は、特別な教育を受けた整備士でないとできません。必ず、お買い上げの特約店・販売店・JAにご相談ください。
- 配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

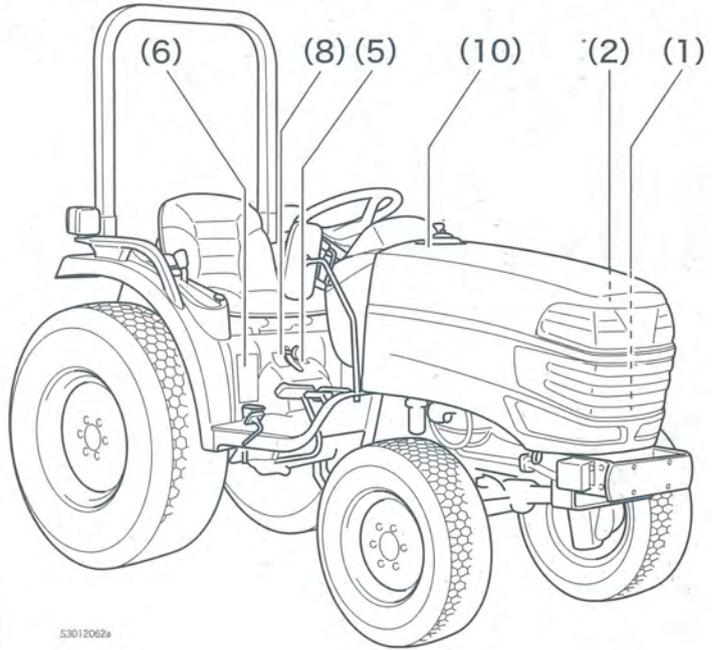
注意

- 油圧の継手やホースを外すときは、油圧回路内の圧力を抜いてください。高圧オイルは皮膚を突き破るほどの力があり、傷害事故の原因になります。
- 油圧配管の見えない小さな穴からの油漏れを探すときは、ボール紙などを利用してください。オイルが皮膚に浸透すると強度のアレルギーを起すおそれがあります。アレルギーが起きたときは、医師の診療を受けてください。

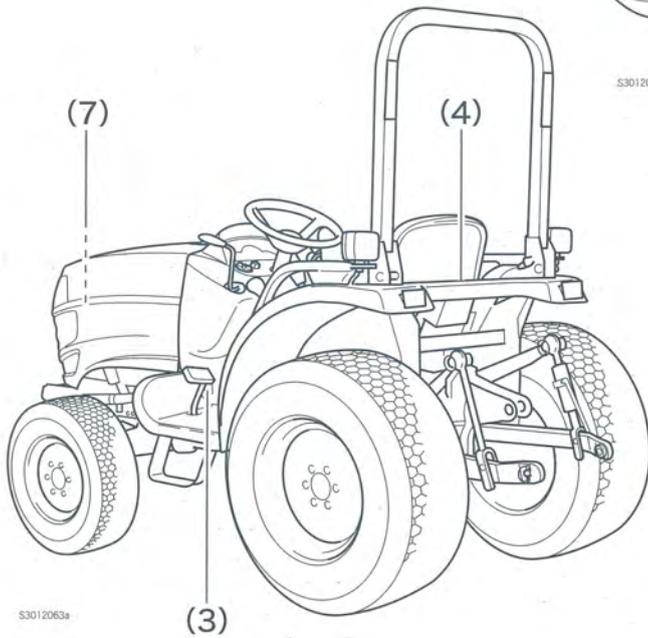
8. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために、安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

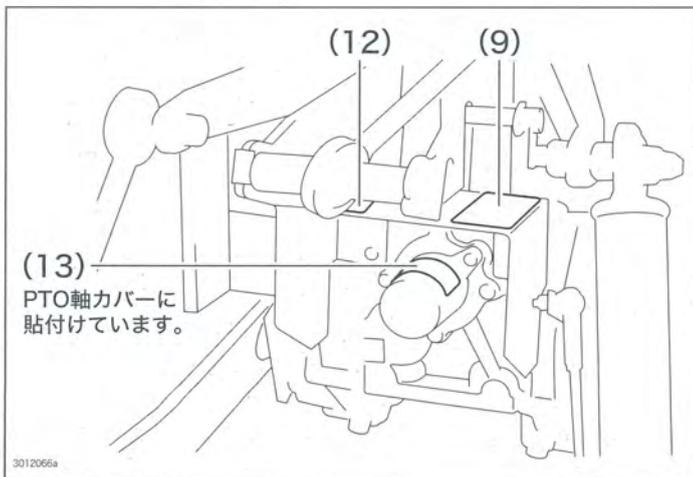
安全銘板は常に破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



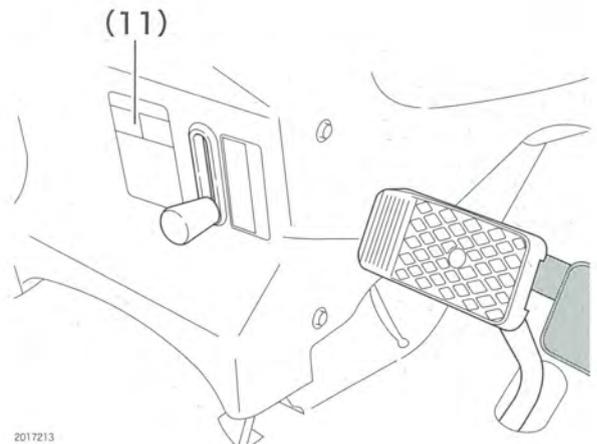
S3012062a



S3012063a



3012066a



2017213

(1) 危険(バッテリー)

 火気禁止	 メガネ着用	 子ども禁止	 硫酸注意	 説明書熟読	 爆発注意
---	--	--	---	---	---

危険

●バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火のおそれがあります。●この12Vバッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
●充電は風通しのよいところで、ショートやスパークをさせないでください。●ブースタケーブルの使用は車両またはバッテリーの取扱説明書をお読みください。
●バッテリー液(希硫酸)で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。
●バッテリー液注入済(横断し厳禁・液漏れ注意) ●充電時火気厳禁 ●急速充電厳禁 ●開封厳禁(密封タイプ)

(2) 1E8500-97220 危険(ラジエータ)

危険



- 高温時にはキャップを開けないでください。
- 熱湯が吹き出しやけどをすることがあります。

1E8500-97220

(ボンネット内、ラジエータ上部)

(3) 1W3901-96120 注意

注意



- 使用しないときはクラッチを切った状態で保管してください。
- クラッチが切れなくなりケガをすることがあります。1W3901-96120

(4) 1W3901-96050 警告(シートベルト・安全フレーム)

警告




- 安全フレームを立てているときはかならずシートベルトを装着してください。
- 運転中はかならず安全フレームを立て、確実に固定してください。
- 転倒時、死傷するおそれがあります。

1W3901-96050

(5) 1A2260-87100 警告(排気ガス)

警告

排ガスに注意



室内および換気の悪い場所での運転は排ガスが充満し、人体に有害です。

1A2260-87100

(6) 1W3901-96080 注意(安全運転)

注意

使用前に取扱説明書をよく読んで、安全で正しい作業をしてください。

始動

- 安全装置・安全カバー類は所定の位置につけ、安全な作業を心がけてください。
- エンジン始動時や機械を操作するときは機械の近くに人がいないことをかならず確認してください。
- 自然通気が悪いところや十分な換気ができないところではエンジン始動や作業をしないでください。
- エンジン始動時はかならずシートにすわってください。また作動装置・レバー・スイッチ類はすべて「切」または「中立」位置にしてください。

運転

- トラクターや作業機の上に人を乗せないでください。運転者以外の人の乗車は非常に危険です。
- 転倒のおそれのある運転はしないでください。
- トラクターから離れるときはかならず作業機を接地させ、レバー類は「中立」位置にして駐車ブレーキをかけて、キーを抜いてください。

整備

- 点検・サービスを行なうときはエンジンを停止し、機械の動きが完全に止まってから行なってください。
- 道路走行を行なうときは道路運送車両の保安基準に適合しなければなりません。

1W3901-96080

(7) 1E5120-86720 注意(高温注意)

注意



マフラー高温注意
さわるとやけどをすることがあります。

1E5120-86720

(ボンネット内)

(8) 198133-65910 警告(油圧)

警告



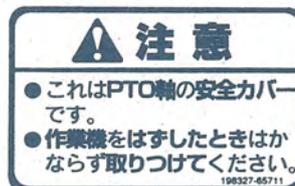
●人が作業機の下に入るときは危険防止のためストップバルブをロック(閉)の方向にいっぱい締込んでください。●作業機が落下してケガをすることがあります。

198133-65910

(9) 198327-65352 危険(回転軸危険)



(13) 198327-65711 注意(PTOカバー)



(10) 1W3901-96030 危険(火災)

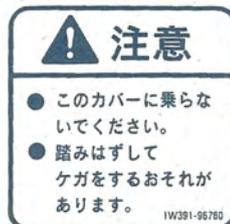


ディーゼル軽油

(11) 1W3901-96061 警告(ブレーキペダル)



(12) 1W3901-96760 注意(ノルナ)



2章 サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

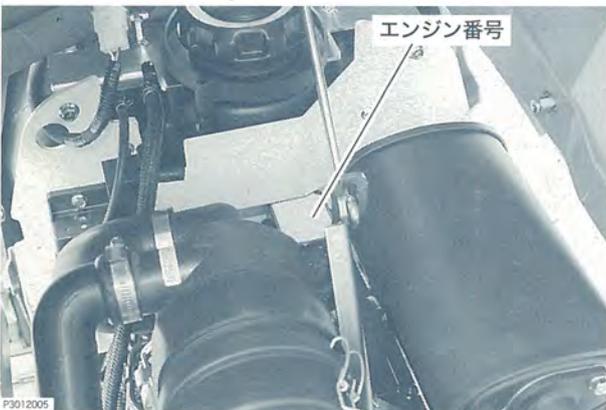
「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときは、65ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた特約店・販売店・JAまでご連絡ください。

《連絡していただきたい内容》

- 型式名と製造番号
- ご使用状況は？
- どのくらい使用されましたか？
(約□□時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。



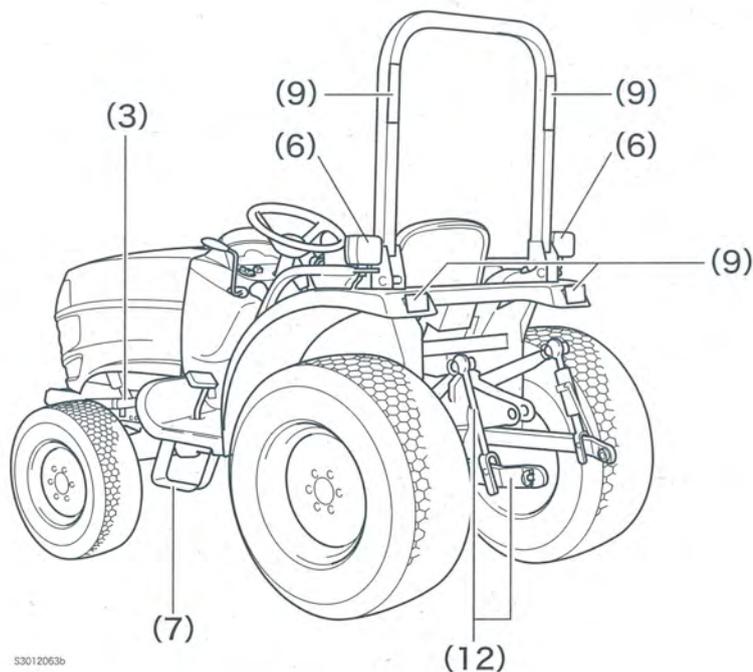
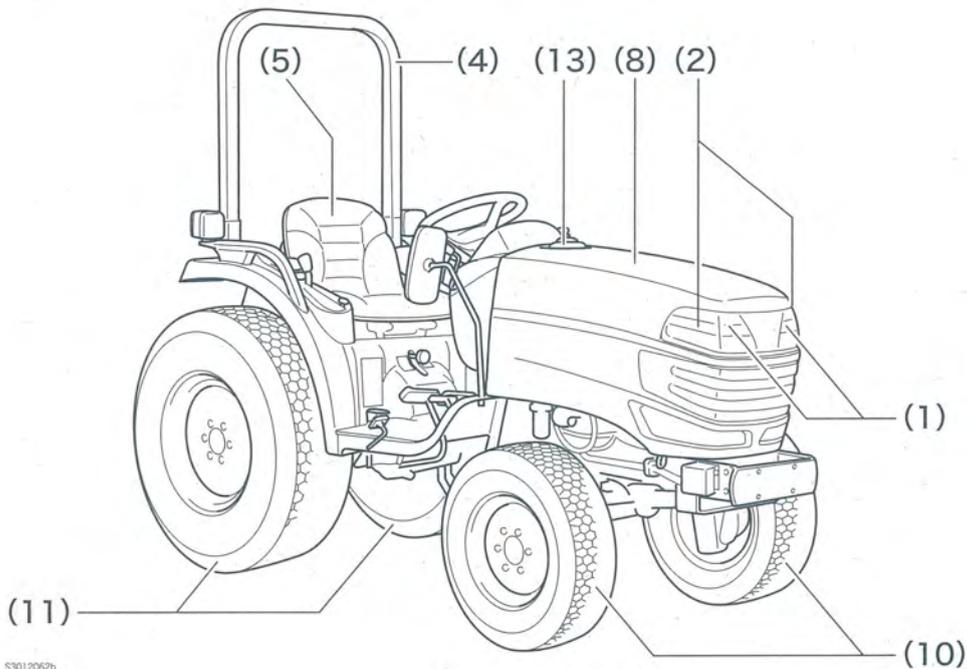
《補修部品の供給年限について》

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させて頂く場合もあります。補修部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要望があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3章 各部のなまえ

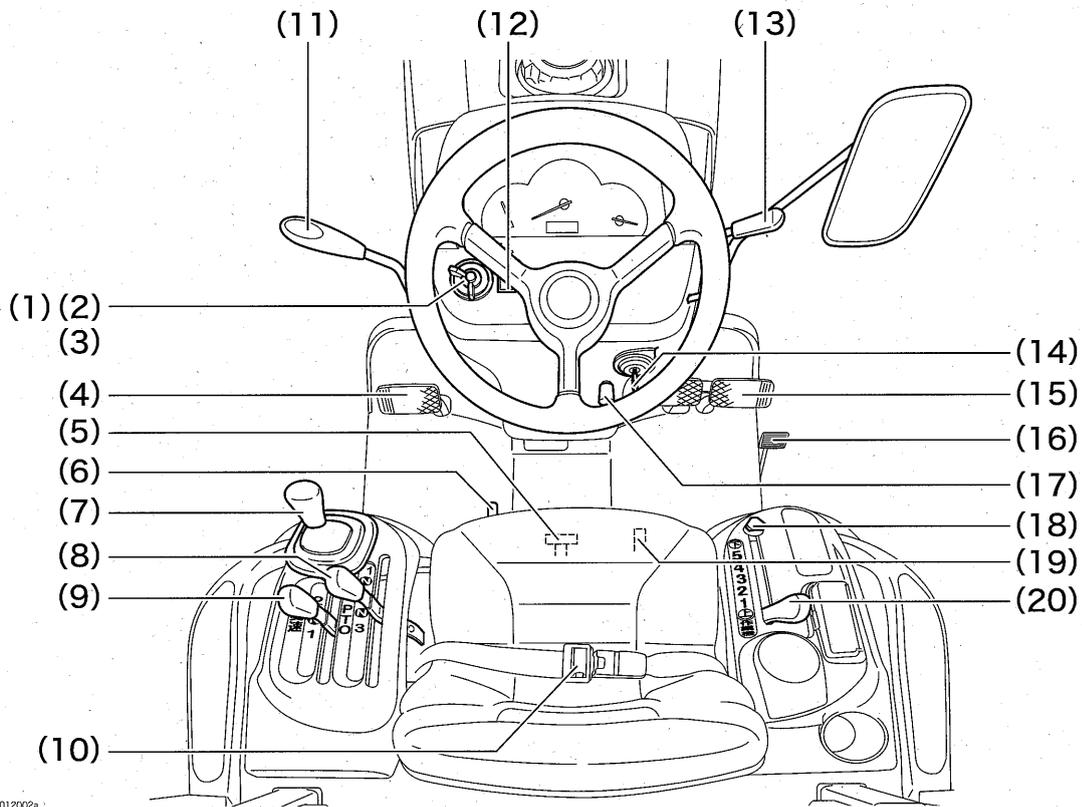
各装置の働きや使いかたは、名称に記載してある参照ページをご覧ください。

1. 外観



	参照ページ		参照ページ
(1)ヘッドライト	25	(8)ボンネット	
(2)サイドランプ	25	(9)反射プレート	
(3)マフラー		(10)フロントタイヤ	
(4)安全フレーム	30	(11)リヤタイヤ	
(5)ドライバーシート	30	(12)3点リンク	
(6)フラッシュランプ (ウインカー)	25	(13)燃料給油口	50
(7)サブステップ			

2. 運転操作部



	参照ページ
(1) フラッシュスイッチ	25
(2) ライトスイッチ	25
(3) ホーンボタン	25
(4) クラッチペダル	22
(5) 油圧ストップ・スローリターンバルブ ...	24
(6) 前輪駆動切替レバー	20
(7) 主変速レバー	20
(8) PTO変速レバー	21
(9) 副変速レバー	20
(10) シートベルト	31

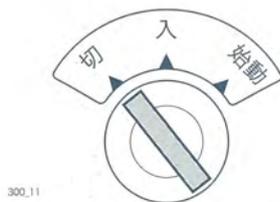
	参照ページ
(11) リバーサレバー	20
(12) サイドランプスイッチ	25
(13) アクセルレバー	19
(14) キースイッチ	19
(15) ブレーキペダル	21
(16) フートアクセルペダル	19
(17) 駐車ブレーキレバー	22
(18) ストッパー	24
(19) デフロックペダル	23
(20) 作業機上下レバー	23

4章 各部のはたらきと使いかた

1. 運転操作部

(1) キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。



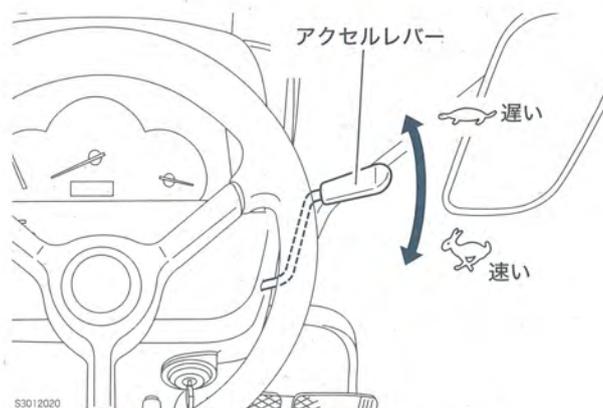
- 「切」……エンジン停止時に使用し、キーの抜き差しができる。(電流は流れません。)
- 「入」……各電装品スイッチに電流が流れる。(エンジン回転中はこの位置にあります。)
- 「始動」……セルモータが回転し、エンジンが始動する。(エンジンが始動したら、キーから手を離してください。キーは自動的に「入」に戻り、連続運転になる。)

【参考】

- キースイッチが「入」で、エンジンが停止している場合は、以下のパイロットランプが点灯します。
 - チャージランプ
 - エンジン油圧ランプ
 - サーモスタートランプ
- パネルの各ランプの詳細については、26ページを参照してください。

(2) アクセルレバー

エンジン回転の上げ下げに使用します。一定回転で作業するときを使用します。

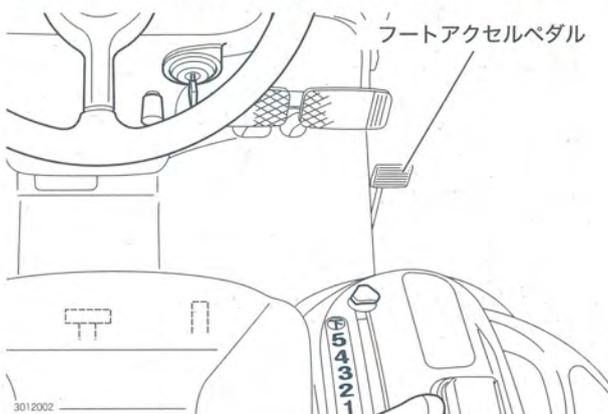


「遅い」側……エンジン回転が遅くなります。

「速い」側……エンジン回転が速くなります。

(3) フートアクセルペダル

道路走行中の走行速度の調節に使用します。

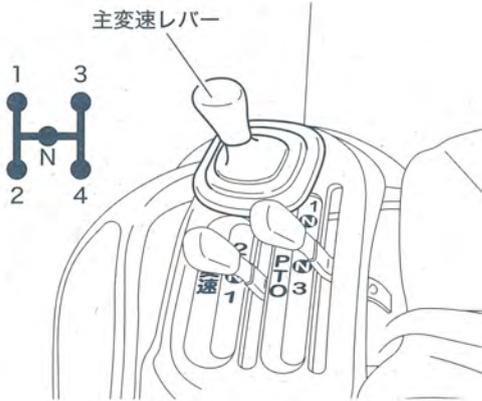


踏み込む……走行速度が速くなる。

離す……走行速度が遅くなる。

(4) 主変速レバー

走行速度を4段階に変速できます。



S3012015

- 「4」速側……走行速度が速くなる。
- 「1」速側……走行速度が遅くなる。

【参考】

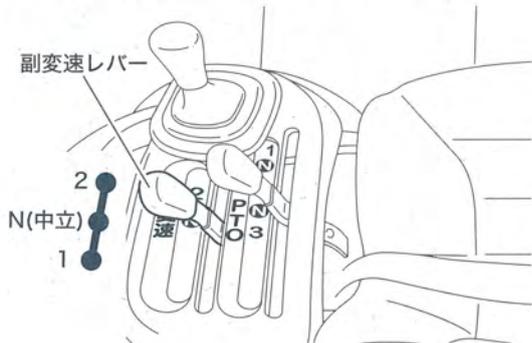
- 副変速レバーとの組み合わせで、8段階の走行速度が選べます。
- 変速するときは、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んで機体が停止してから変速してください。

(5) 副変速レバー

2段階に変速ができます。

主変速レバーとの組み合わせで、8段階の走行速度が選べます。

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込み、機体が停止してから変速してください。



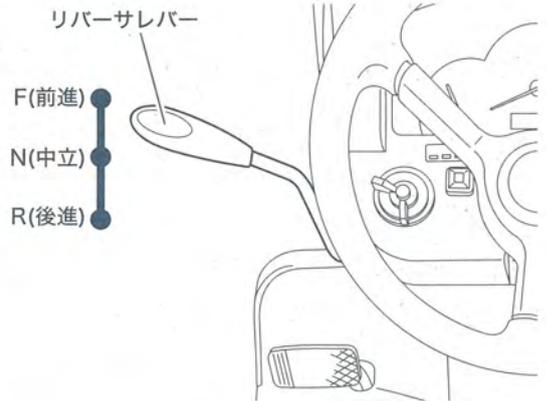
S3012017

- 「2」速側……走行速度が速くなる。
- 「N」(中立) ……走行が止まる。
- 「1」速側……走行速度が遅くなる。

(6) リバーサレバー

前進・後進の切り替えに使用します。

変速するときは、いったん「N」(中立)にして、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込み、操作してください。



3012014

- 「F」 ……前進する。
- 「N」(中立) ……走行が止まる。
- 「R」 ……後進する。

(7) 前輪駆動切替レバー

2輪駆動と4輪駆動の切換えをするときに使用します。クラッチペダルを踏込んで操作してください。

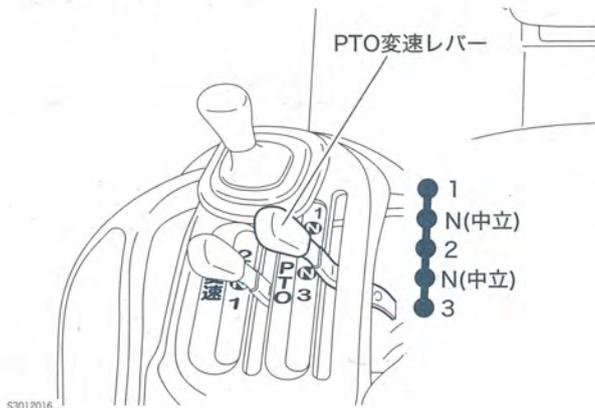


P3012045

(8) PTO変速レバー

PTO軸の回転数を正転3段階・1段階に変速できます。

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでください。



「3」側……………PTO回転速度が速くなる。

「1」側……………PTO回転速度が遅くなる。

「N」(中立) …… PTO回転が止まる。

(9) ブレーキペダル

機体の停止や駐車をするとき、およびほ場内での旋回に使用します。

ブレーキペダルは、左右独立しています。使用状況に合わせて連結金具を、連結または解除してください。



2017209

踏み込む……………ブレーキがかかる。

離す……………ブレーキが解除される。

【参考】

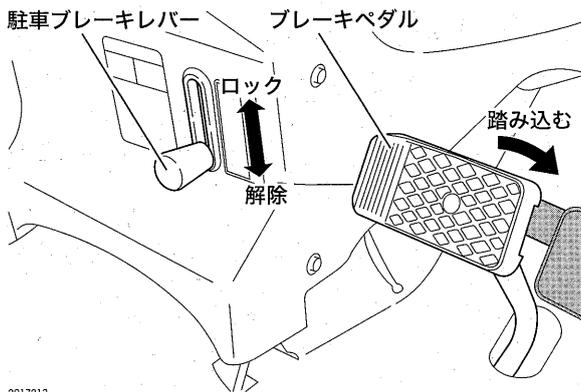
- ブレーキペダルが連結されていない場合は、パネルのブレーキ非連結ランプが点灯します。連結するとランプは消灯します。
- ほ場内で小回りする場合は、連結金具を解除し、旋回したい側のブレーキペダルを踏み込んでください。踏み込んだ側の後輪にブレーキがかかり、小回りができます。
- 移動走行する場合は、連結金具で左右のブレーキペダルを連結してください。連結するとブレーキペダルを踏み込んだとき、左右同時にブレーキがかかります。

(10) 駐車ブレーキレバー

機体を駐車するときに使用します。

駐車ブレーキレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

駐車ブレーキを使用するときは、左右のブレーキペダルを連結金具で確実に連結してください。



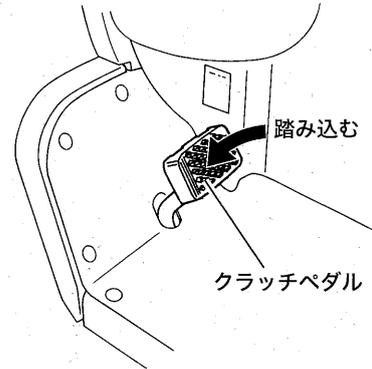
2017213

引き上げる……駐車ブレーキが働く。

押し下げる……駐車ブレーキが解除される。

(11) クラッチペダル

エンジン始動時や、エンジンの動力を断つとき、および変速時に使用します。



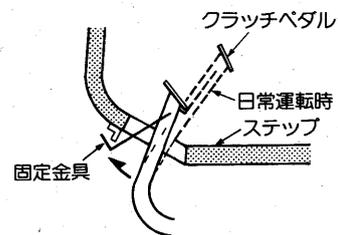
2014511

踏み込む……クラッチが切れ、エンジンの動力が断たれる。

離す……クラッチがつながる。

【重要】

- クラッチペダルを戻すときは、ゆっくり戻してください。急に離すと、急発進するおそれがあります。
- トラクターを長期間使用しない場合は、クラッチの錆付きを防止するため、クラッチを踏み込んだ状態でクラッチペダルロックを掛けてください。



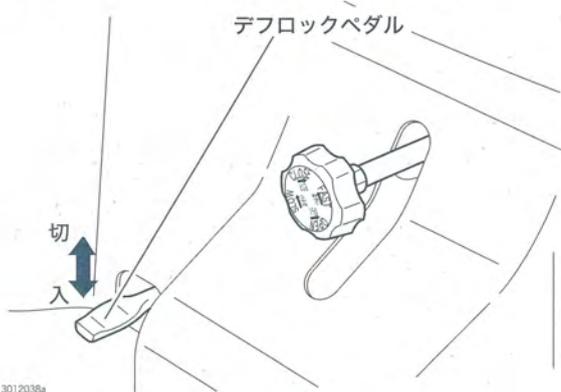
1014905A

(12) デフロックペダル

警告

- 移動走行時は、絶対にデフロックを使用しないでください。デフロックを使用すると、思うようにハンドル操作ができなくなり、転倒や追突事故のおそれがあります。

軟弱なほ場で、後輪の片側が空転したときに使用します。



- 踏み込む……デフロックが働く。
離す……デフロックが解除される。

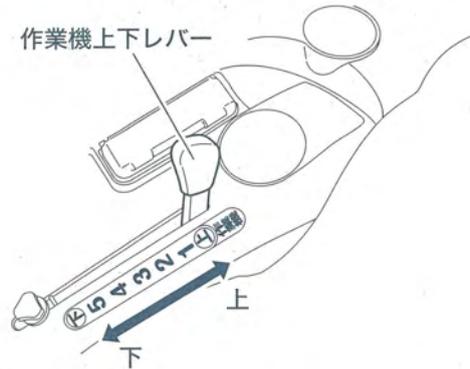
デフロックペダルを踏み込むと、左右の後輪が一体で駆動し、後輪の空転を防止します。

【重要】

- 旋回するときは、デフロックを必ず切ってください。デフロックを入れた状態では旋回できません。
- デフロックは、デフロックペダルを踏み続けている間作動します。

(13) 作業機上下レバー

レバー操作で作業機の上げ・下げができます。最上昇位置にすると「ピ」とお知らせします。



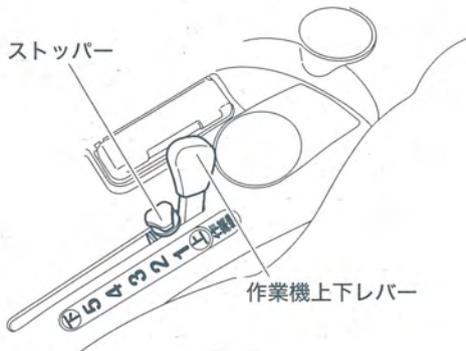
- 「上」方向……作業機が上がる。
「下」方向……作業機が下がる。

作業機は、レバーで設定した位置を保持します。

(14) ストッパー

作業機上下レバーの操作を規制します。次の場合に使用します。

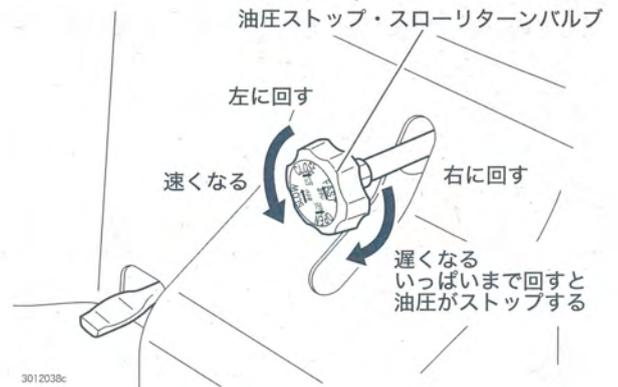
- 作業機を上げた状態で固定するとき
- 作業機上下レバーの操作範囲を制限するとき



S3012027a

(15) 油圧ストップ・スローリターンバルブ

作業機の下降速度の調節、および作業機が下降しないように固定することができます。

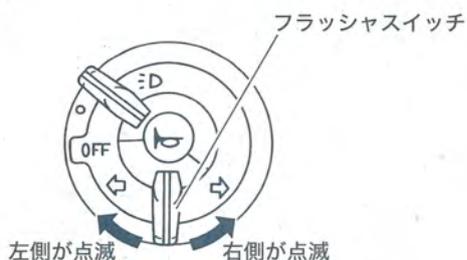


「おそい」(CLOSE) 側へ回す…作業機の降下速度が遅くなる。さらにいっぱいまで回すと、作業機が下降しない。

「はやい」(OPEN) 側へ回す…作業機の降下速度が速くなる。

(16)フラッシュスイッチ

フラッシュランプ(ウインカー)を点滅させるときに使用します。

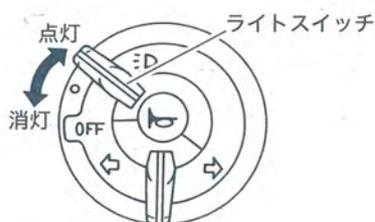


3012001a

キースイッチを「入」にして
右へ回す……右側が点滅する。
左へ回す……左側が点滅する。

(17)ライトスイッチ

ヘッドライトを点灯、または消灯させるときに使用します。

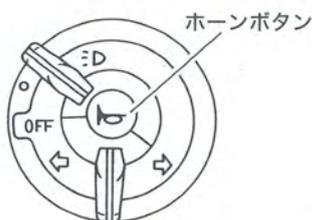


A3012002a

キースイッチを「入」にして
上へ回す……ライトが点灯する。
下へ回す……ライトが消灯する。

(18)ホーンボタン

ホーン(警笛)を鳴らすときに使用します。



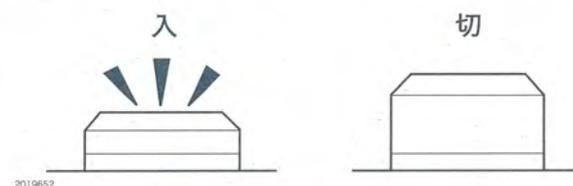
A3012003a

キースイッチを「入」にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

(19)サイドランプスイッチ

押すとスイッチが点灯し、サイドランプが点灯します。

スイッチを押すごとに、点灯と消灯をくり返します。



2019652

[サイドランプの取り扱いについて]

- 道路運送車両法により、道路走行時のサイドランプ点灯は違反になりますので、必ず消灯して走行してください。

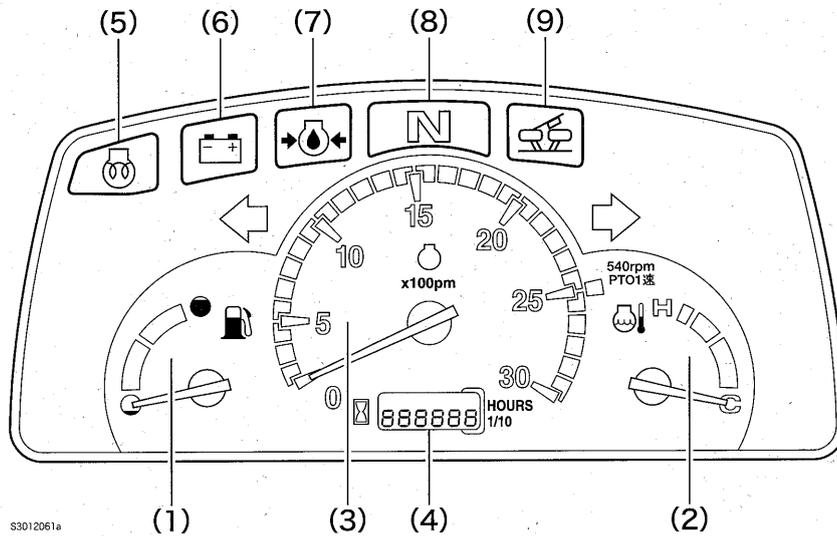
(20)収納ボックス

シートの下にあります。工具や小物を収納するのに便利です。

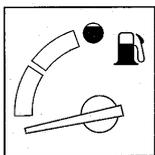


3012036

2. パネル

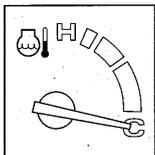


(1) 燃料計



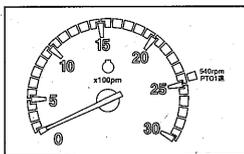
燃料の残量を指針で知らせます。針が減少位置を示したときは、早めに燃料補給してください。

(2) 水温計



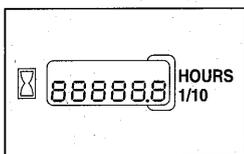
運転中の冷却水温を指針で表示します。針がレッドゾーンを示したときは、エンジンがオーバーヒートしているおそれがあります。作業を中断して点検してください。

(3) エンジン回転計



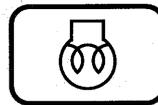
エンジン回転数を指針で示します。

(4) 積算時間計



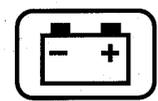
トラクターの使用時間を表示します。10分の1時間まで表示します。

(5) サーモスタートパイロットランプ



ヒーター通電状態を表すランプです。キースイッチを「入」にすると点灯し、ヒーターに通電したことを示します。ランプが消灯したら、キースイッチを「始動」にして、エンジンが始動できます。

(6) チャージパイロットランプ



バッテリーへの充電状態を表すランプです。キースイッチを「入」にしてエンジン始動後、エンジン回転が上がってバッテリーへの充電が始まると消えます。エンジン回転中にランプが点灯したときは、バッテリーに充電されなくなっています。

【参考】

- エンジン回転が1000rpm以下では充電されません。1500rpm以上にしてください。

(7) エンジン油圧パイロットランプ

エンジン潤滑油の油圧状態を表すランプです。

キースイッチを「入」にすると点灯し、エンジンを始動すると消えます。エンジン回転中にランプが点灯したときは、潤滑油回路に異常が発生しています。

(8) N(ニュートラル)ランプ

リバーサレバーの「N」(中立)を表すランプです。

リバーサレバーが「N」(中立)位置にあるときに点灯します。

(9) ブレーキ連結解除ランプ

左右のブレーキの連結状態を表すランプです。

ランプが点灯しているときは、左右のブレーキペダルが連結金具で連結されていません。連結すると消灯します。

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明をしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。燃料に引火して、火災のおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所にトラクターを駐車させ、エンジンを停止してください

⚠ 注意

- トラクターの点検・整備などで取り外したカバー類は、元通りに取り付けてください。取り外した状態で運転しますと、機械に巻き込まれるおそれがあります。
- トラクターは常に掃除しておいてください。バッテリー、配線、マフラー、エンジンの周辺部に、ゴミや燃料の付着があると火災の原因になります。

1. 運転前の点検

運転・作業を行う前の点検は、次の順序で行ってください。

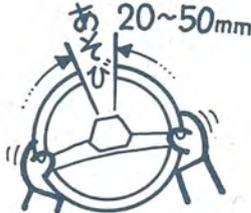
点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	前日の異常箇所 ● 前日の作業中に異常を感じたところはありませんか。	
本機の周りを回ってみて	<ul style="list-style-type: none"> ● 各部の変形・損傷・汚れはありませんか ● タイヤの空気圧、摩耗度合の確認やタイヤの損傷はありませんか..... 64 ● 車体各部の損傷、ボルトのゆるみはありませんか ● ディスクと車軸の取付けボルトおよび リムとディスクの取付けボルトのゆるみはありませんか 64 ● リム、ディスク、車軸の損傷はありませんか..... 64 ● 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷はありませんか 50・58 	



2010908



2010567

点検順序	点検箇所	参照ページ
ボンネットを開けてみて  2010556	<ul style="list-style-type: none"> ●エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか 51 ●冷却水の量と水もれ、ホースの損傷はありませんか 54・58 ●バッテリー液の量は正常ですか 57 ●エアクリーナーは汚れていませんか 55 ●冷却ファンベルトの張りや損傷はありませんか 62 ●ラジエータグリルやエンジンルーム内にホコリやゴミはありませんか 55 ●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか 59 	
作業機側へ回ってみて	<ul style="list-style-type: none"> ●ドライブシャフトロックピンのPTO軸への挿入状態は適正ですか ●各部のRピンの差し込み状態は適正ですか <p>詳しくは作業機の取扱説明書をご覧ください。</p>	
ドライバーシートに座ってみて  2010565	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキの作動具合は適正ですか 60 ●ハンドルの遊び量は適正ですか 61 ●クラッチペダルの作動具合は適正ですか 61 	
エンジンを始動してみても  3010640	<ul style="list-style-type: none"> ●エンジン始動後の異音はありませんか ●排気ガスは、正常な色をしていますか 64 ●ランプ・メータ類の作動は正常ですか 26 	

2. 運転席周りの調節

(1) 安全フレームの折りたたみかた

1. トラクター左右のピンを手前に引き、ピンを約90°回転して安全フレームのロックを解除します。
2. 安全フレームを少し倒します。
3. ピンを元の状態に戻します。
4. もう一度安全フレームを、ピンで自動的にロックされるまで倒します。



3012044

(2) 安全フレームの立てかた

1. トラクター左右のピンを手前に引き、ピンを約90°回転して安全フレームのロックを解除します。
2. 安全フレームを少し立てます。
3. ピンを元の状態に戻します。
4. もう一度安全フレームを、ピンで自動的にロックされるまで立てます。

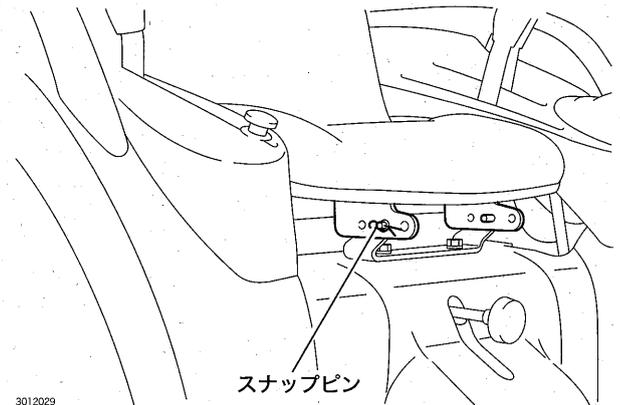
[参考]

- ロックピンがロックされていない場合は、安全フレームを少し揺すって、ロックピンを確実にロックしてください。

(3) ドライバーシート

ハンドルやレバー類・ペダルなどが楽に操作できる、ゆとりのある位置にシートを調節できます。

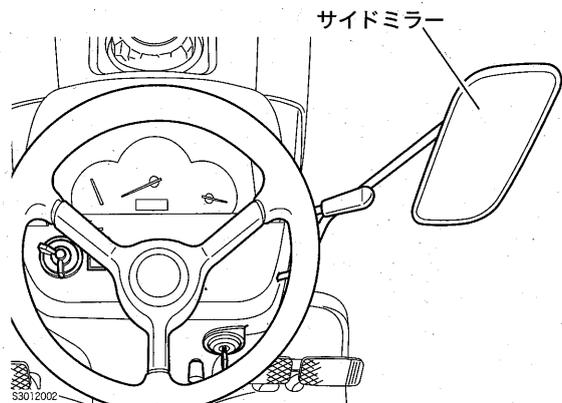
スナップピンを外すと、シートの前後調節が3段階に調節できます。



3012029

(4) サイドミラーの位置調節のしかた

運転席に座って、トラクター後方が良く見える位置にサイドミラーを調節してください。サイドミラーは手で動かして調節できます。



33012002

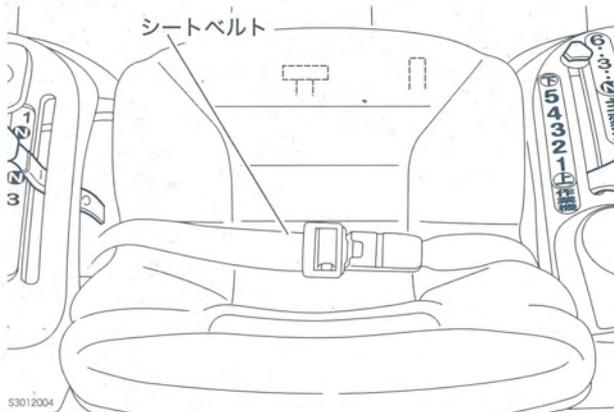
▲ 注意

- サイドミラーの調節は、必ずトラクターが停止した状態で行ってください。走行しながらの調節は事故を起すおそれがあります。

3. シートベルトの装着

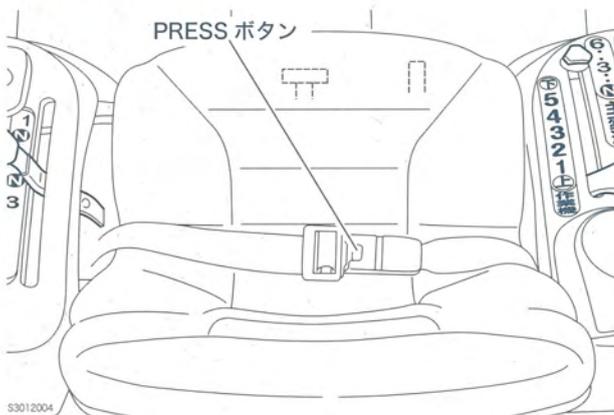
(1) 装着のしかた

ドライバーシートに座って、シートベルトを腰骨にかかる位置に、ねじれないように装着してください。作業者の身体に合わせてベルトの長さを調節してください。



(2) 外しかた

バックルの「PRESS」ボタンを押してください。ベルトが外れます。



6章 運転のしかた

1. ならし運転(最初の50時間)について

新車は、最初の50時間目までの取り扱いが寿命や性能に大きく影響します。この期間中は、特に下記のことを厳守してください。

- 急発進、急ブレーキは慎んでください。
- 必要以上の速度や負荷をかけないでください。
- 運転は、エンジンが十分に暖まってから行ってください。
- 悪路や傾斜地では、速度を落として、ゆっくり走行してください。
- 最初の50時間目になったら、47ページの「3.定期点検・整備一覧表」に従って、各部の点検やオイル交換をしてください。

2. エンジンの始動・停止のしかた

⚠ 警告

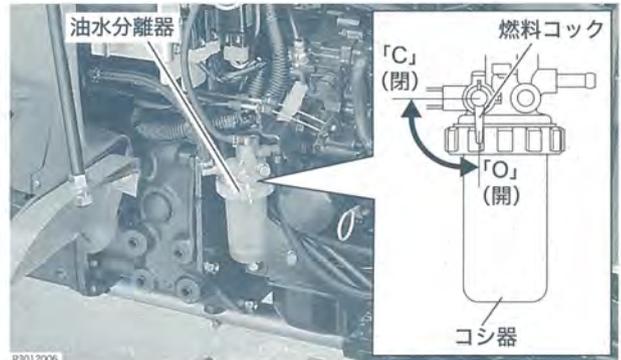
- エンジンを始動するときは、必ず運転席に座り、リバーサレバー・主変速レバー・副変速レバー・PTO変速レバーが「N」位置にあるか、また駐車ブレーキが掛かっているか確認してください。トラクターが突然動き出し、転落や追突事故のおそれがあります。

⚠ 注意

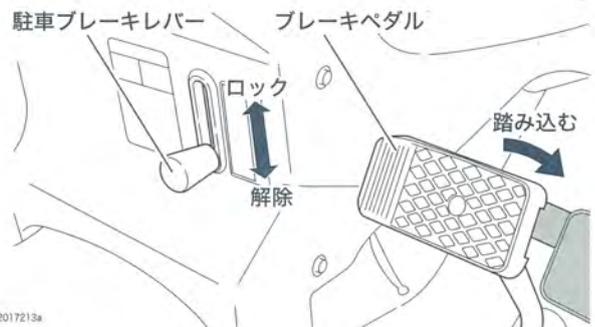
- 作業機上下レバーが「下」位置になっていないときや、リフトランプが点灯しているときは、エンジンを始動しないでください。作業機が急に上がり、傷害事故を起こすおそれがあります。
- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。何らかの原因でトラクターが走り出し、事故を起こすおそれがあります。
- 高速走行時、急激なクラッチやブレーキ操作はしないでください。転倒、転落事故を起こすおそれがあります。

(1) 始動のしかた

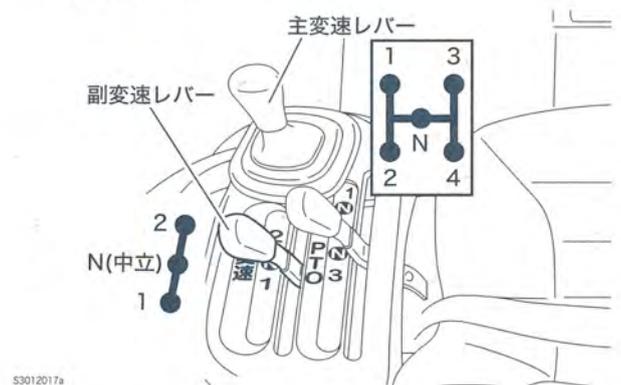
1. 油水分離器の燃料コックを「O」(開)位置にしてください。



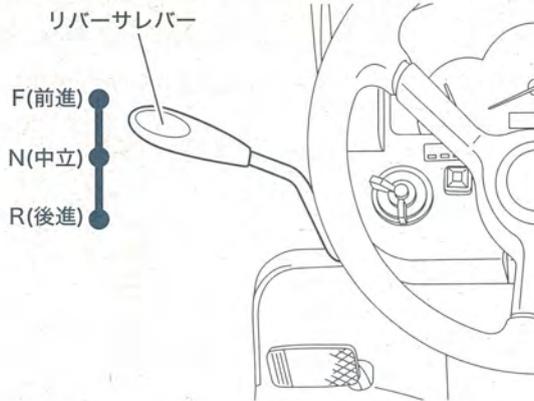
2. 駐車ブレーキをかけてください。
ブレーキペダルを連結金具で左右連結して踏み込み、駐車ブレーキレバーを引き上げて、足を離してください。



3. 主変速レバー・副変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。

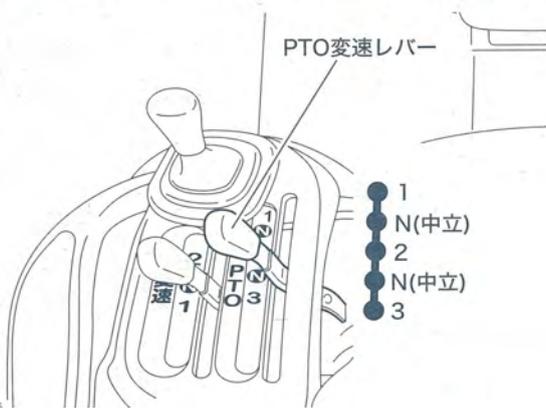


4. リバーサレバーを「N」(中立)位置にしてください。



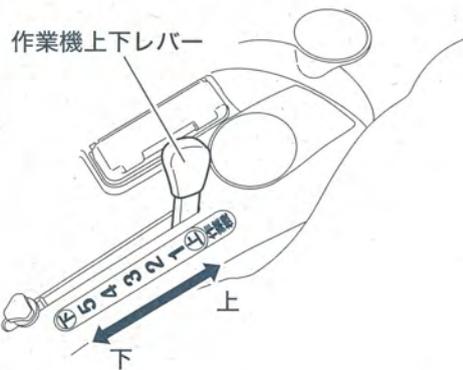
S3012014

5. PTO変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。



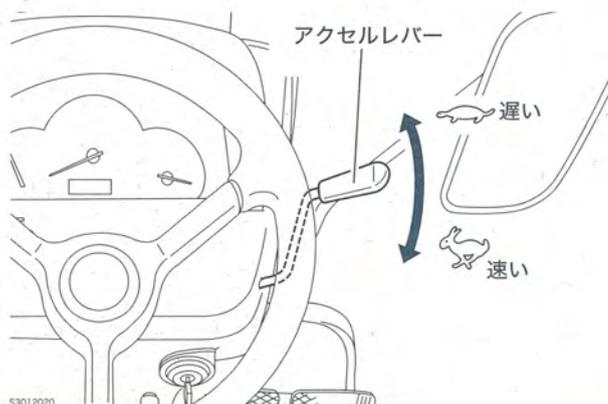
S3012016

6. 作業機上下レバーを「下」位置にしてください。



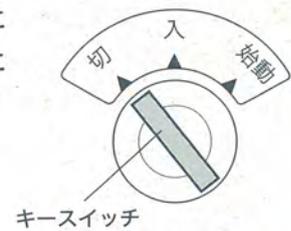
S3012026a

7. アクセルレバーを「速い」側にしてください。



S3012020

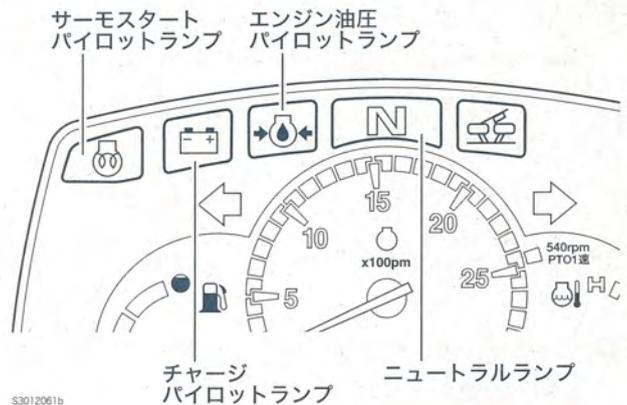
8. キーをキースイッチに差し込み、「入」位置にしてください。



キースイッチを「入」位置にしたとき、計器盤の下記のランプが動作します。

- エンジン油圧パイロットランプの点灯。
- チャージパイロットランプの点灯。
- ニュートラルランプの点灯。
- サーモスタートパイロットランプの点灯。

エンジンが暖まっているときは、ランプが瞬時に消えます。

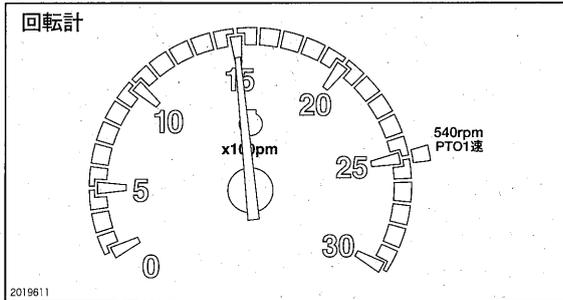


9. サーモスタートパイロットランプが消灯したら、クラッチをいっぱいまで踏み込み、キースイッチを「始動」位置にしてください。セルモータが回り、エンジンが始動します。

【重要】

- リバーサレバーを「N」・PTO変速レバーを「N」位置にしないと、安全スイッチの動きによりセルモータが回りません。

10. エンジンが始動したら、キースイッチから手を離してください。「入」位置に戻ります。
11. アクセルレバーで回転計の針を 1500rpm 程度に合わせて、約 5 分間は負荷をかけずに暖機運転を行ってください。



【重要】

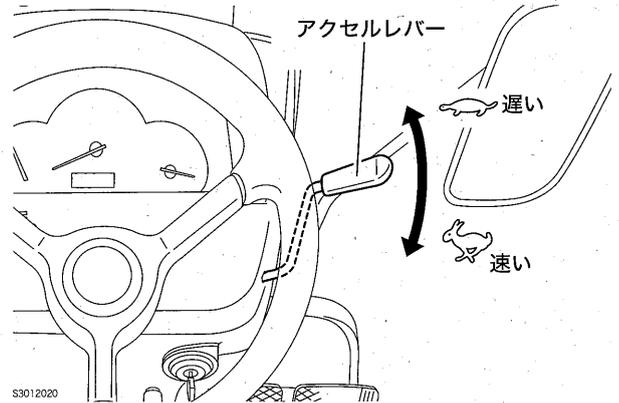
- 寒冷時は、油圧系の性能を十分に発揮するために、下表を目安に暖機運転を長めに行ってください。

気温	暖機運転時間
0°C～-10°C	10分以上
-10°C～-20°C	20分以上
-20°C以下	30分以上

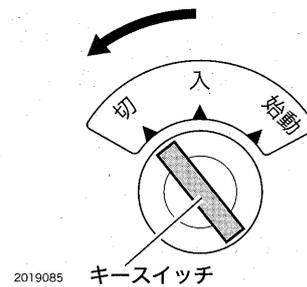
- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。(10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから、前述8.の操作を繰り返してください。)

(2) 停止のしかた

1. アクセルレバーをいっぱいまで「遅い」側にしてください。エンジン回転が下がります。



2. キーを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。



3. 各変速レバーが「N」(中立) になっていることを確認してください。

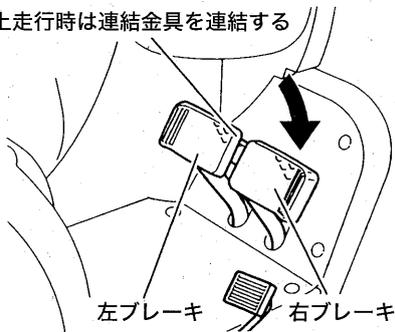
3. 発進・走行のしかた

警告

- 発進は、ゆっくり行ってください。急発進すると、傷害事故を起こすおそれがあります。

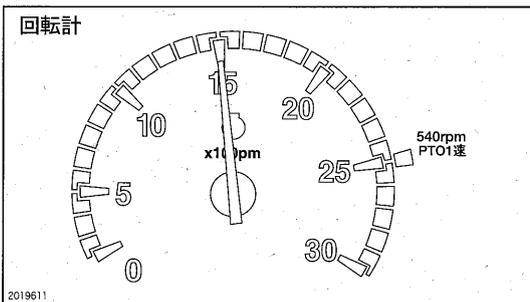
1. ブレーキペダルが連結金具で、左右連結していることを確認してください。

路上走行時は連結金具を連結する



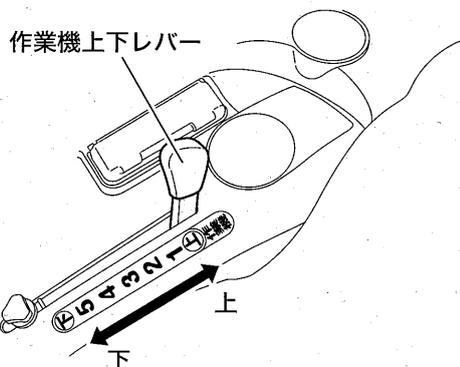
2017209a

2. 回転計の針が1500rpm程度を指すように、アクセルレバーで調節してください。



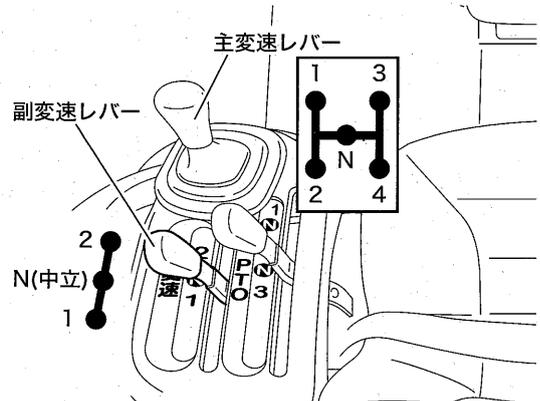
2019611

3. 作業機上下レバーを「上」方向に引いて、作業機を最上昇位置にしてください。



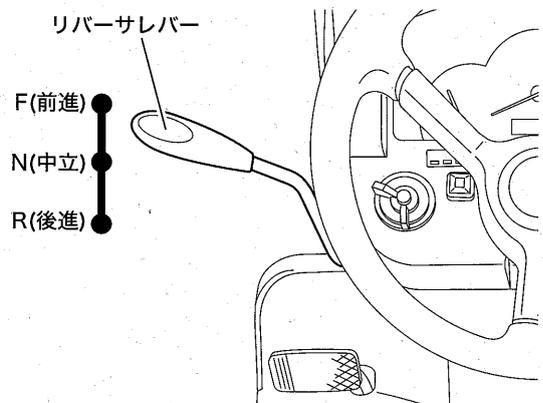
S3012026a

4. クラッチペダルをいっぱいまで踏み込み、副変速レバーと主変速レバーを希望の位置に入れてください。作業速度段については、69ページを参照してください。



S3012017a

5. リバーサレバーを「F」または「R」位置に入れてください。



3012014

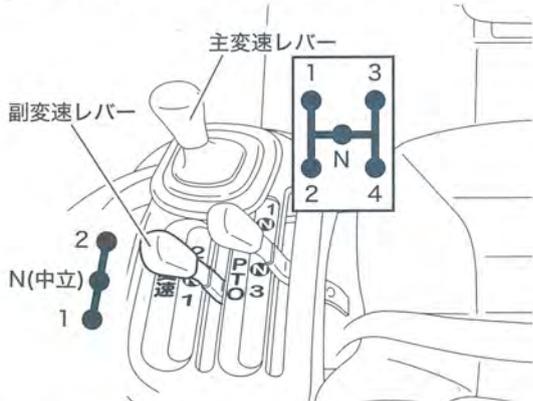
6. クラッチペダルの踏みこみをゆっくり戻してください。トラクターが動き始めます。

【重要】

- 走行中や作業中は、絶対にクラッチペダルの上に足を乗せないでください。クラッチの早期摩耗の原因になります。

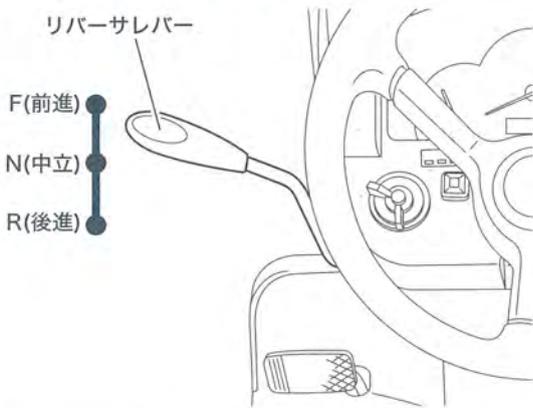
4. 変速のしかた

1. 主変速レバーは、クラッチペダルをいっばいに踏み込み、機体が停止してから変速してください。



S3012017a

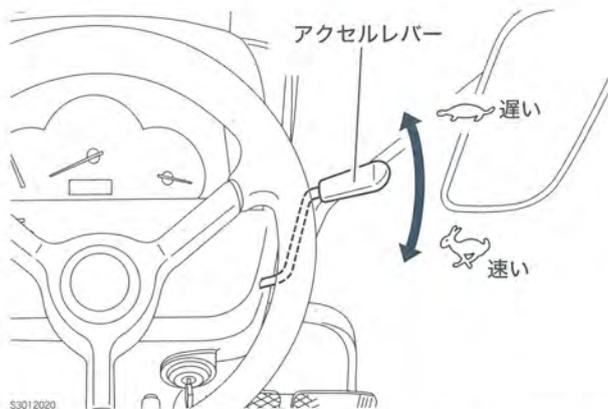
2. リバーサレバーは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで前後進の切換をしてください。



3012014

5. 停車・駐車のしかた

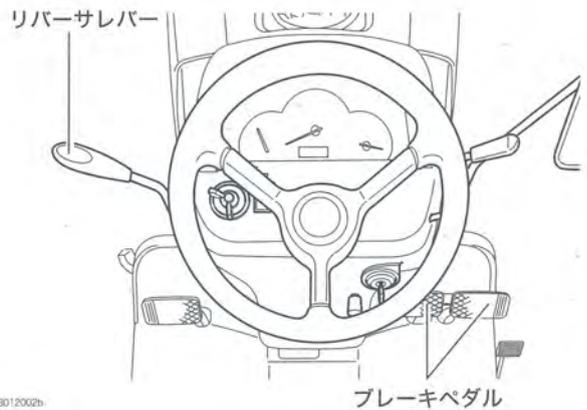
1. アクセルレバーを「遅い」側に戻してください。トラクターのスピードが落ちます。



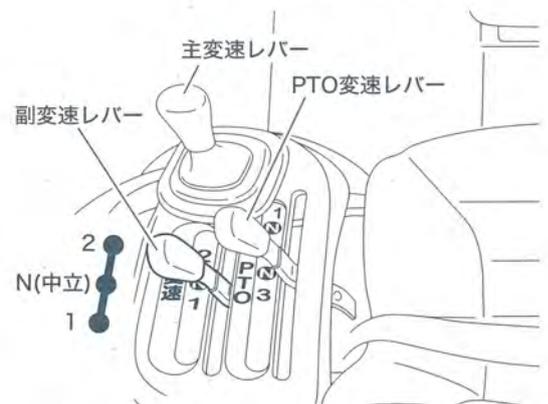
S3012020

2. クラッチペダルとブレーキペダルを同時に踏み込んでください。トラクターが停止します。

3. 主変速レバー・副変速レバー・リバーサレバー、およびPTO変速レバーを「N」位置にしてください。

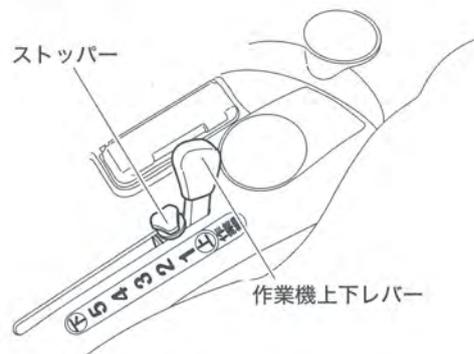


S3012002b



S3012017b

4. 左右のブレーキが連結金具で連結されていることを確認し、ブレーキペダルを踏み込んだまま、駐車ブレーキレバーを引いて、ブレーキをロックしてください。
5. 作業機を取り付けている場合は、作業機上下レバーを「下」方向に操作して、作業機を地面に下ろしてください。



S3012027a

6. キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。
7. キーを抜いてください。

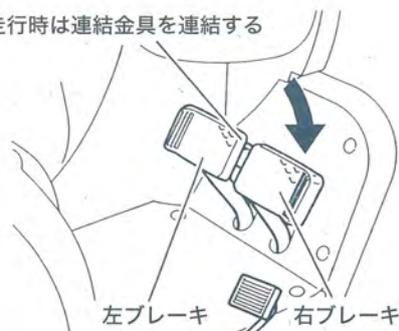
6. 道路走行のしかた

⚠ 警告

- 必ず左右のブレーキペダルを連結してください。守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

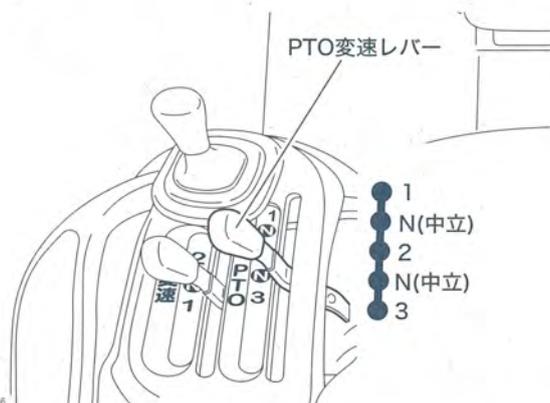
1. 左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

走行時は連結金具を連結する



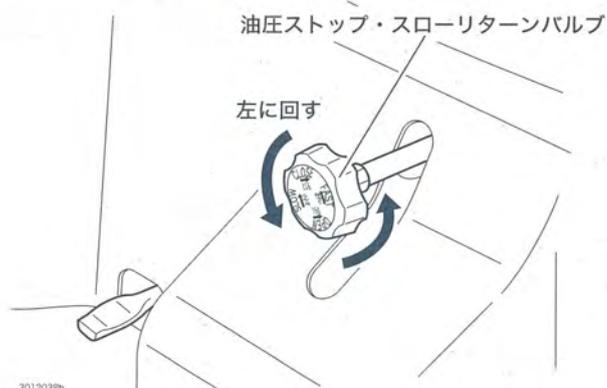
2017209b

2. PTO変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。



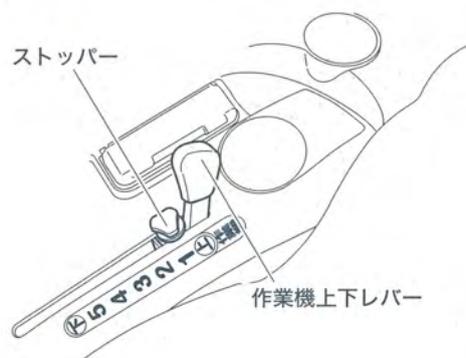
S3012016

3. 油圧ストップ・スローリターンバルブをいっぱいまで開いてください。



3012038b

4. 作業機上下レバーを「上」位置にして、ストッパーをセットしてください。



S3012027a

【重要】

- ストッパーをセットして走行してください。守らないと、作業機上下レバーに手が当たった時、レバー位置が変わり、作業機が落下し破損事故を引き起こします。

5. 走行中の操作について

- 走行スピードはフットアクセルペダルで調節してください。
- 進路を変更するときは、フラッシュスイッチによって進行方向を他の車に知らせてください。
- バックミラーで後続車に注意し、追越しの妨害にならないようにしてください。
- 夜間走行時はライトを点灯してください。

7. 坂道での運転のしかた

警告

- あらかじめ適正な速度段を選択し、坂の途中では、変速をしないでください。トラクターが急に下がり出し、暴走するおそれがあります。必ず低速で運転してください。
- 坂道の途中では、リバーサレバー・主変速レバー・副変速レバーを「N」(中立)位置にしないでください。
- 坂の途中ではクラッチペダルを踏まないでください。トラクターが急に下がり出し、暴走するおそれがあります。
- 上り坂で急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。エンジン回転を落としてゆっくりと発進してください。
- 坂道では駐車しないでください。やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに輪止めをし、駐車ブレーキを引いてブレーキをロックしてください。

1. 坂道に入る前にゆっくりした速度段を選択してください。
2. 発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくりと発進してください。
3. 変速ギヤを低速に入れ、ゆっくりした速度で坂を走行してください。

8. トラックへの積み・降ろしのしかた

危険

- アユミ板の上では、進路変更や停止をしないでください。また、クラッチの操作を絶対にしないでください。転落などの事故を起こすおそれがあります。
- 左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。ブレーキ操作を行った際、ブレーキが片ぎきして、転落などの事故を起こすおそれがあります。

警告

- 使用するアユミ板は、段差の4倍以上の長さで、幅・強度が十分あり、スリップしないものを選び、アユミ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。
- トラックへの積み込みは後進で、降ろしは前進で行ってください。
- 積み・降ろしは、ゆっくりした速度段を選び、途中では、変速しないでください。
- トラクターをトラックに載せて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックに固定してください。

(1) トラックの準備

トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。

- トラックの変速はオートマチック車は「P」、マニュアル車は「1速」または「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけてください。
- トラックのタイヤに車止めをしてください。
- トラックの荷台にアユミ板のフックを、段差がないように確実に掛けてください。

(2) 本機の積み込みかた

1. ブレーキペダルを連結してください。
2. 変速は低速位置で、リバーサレバーを「R」位置で、エンジン回転を低速にして積み込んでください。
3. アユミ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。

〈万一積み込み途中でエンストしたとき〉

すぐにブレーキペダルを踏み込み、その後、徐々にブレーキをゆるめて、地面までゆっくり降りてください。あらためてエンジンを始動して、積み込みを行ってください。

(3)トラックに積み込んだら

下記の要領で、トラックに固定してください。

1. トラクターの駐車ブレーキをかけてください。
2. トラクターのエンジンを停止し、キーを抜いてください。
3. 作業機を取り付けている場合は、作業機上下レバーを「下」方向に操作して、作業機を荷台に接地させてください。
4. 後輪タイヤおよび前部フレームにロープを掛けて、確実に固定してください。

(4) トラクターの降ろしかた

1. トラクターを固定しているロープを外してください。
2. エンジンを始動してください。
3. クラッチペダルをいっぱいまで踏み込み、変速を低速位置にしてください。
4. 作業機を取り付けている場合は、作業機上下レバーをゆっくり「上」方向に操作して作業機を上昇させてください。
5. リバーサレバーを「F」位置で、エンジン回転を低速にしてください。
6. クラッチペダルから、踏み込みをゆっくり戻して、トラクターを移動してください。トラクターは、アユミ板の上で、進路変更をしなくて済むように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めてください。

警告

- トラクターの前部または後部に重い作業機を装着したときは、人や物をバランスウエイトの代わりに乗せないでください。転落事故の原因になります。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。
- トラクターを移動して作業機と着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に、人が入らないようにしてください。傷害事故の原因になります。
- トラクターに作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書をよく読んで理解してください。
- 作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。万一、作業機が下がったときに傷害事故を負うおそれがあります。
- ローダ作業時は、前方にバランスが片寄らないように、後方にウエイトまたは作業機を装着してください。
- ハウス内で作業するときは、排ガスが充満しないように、十分に換気をしてください。排ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。
- 爪に巻き付いた草などを取るときは、エンジンを停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。
- 人（特に子供）には十分注意し、トラクターに近づけないでください。
- わき見、手放し運転はしないでください。
- 背の高い作業機（調整レバーを含む）を装着した場合や、ロータリー用アタッチメントを取り付けた場合には、作業機を最上げにすると作業機の調整レバーなどが干渉し、人身事故や機械の破損の原因となりますので下記の要領にて装着および操作をしてください。
- トラクターに作業機上げ規制装置（上げ位置ダイヤル）がある場合
 - ・作業機を装着し、トラクター本体に干渉しないように、上げ位置ダイヤルで上げ高さを規制してください。
 - ・上げ高さ設定時はエンジン回転を低速にし、ゆっくりと作業機をあげて上げ高さを設定してください。
- トラクターに作業機上げ規制装置（上げ位置ダイヤル）がない場合
 - ・装着に際しては、トラクターのリフトリンクは下穴を使用し、上げ高さを規制してください。（ユニバーサルジョイント装着作業機は、ユニバーサルジョイントが抜けない位置に取り付けてください。抜ける場合は、リフトリンク穴位置を上穴へ変更してください。）
 - ・作業機を昇降する場合は、作業機上下レバーで上げすぎないように注意しながら、ゆっくりと上げてください。

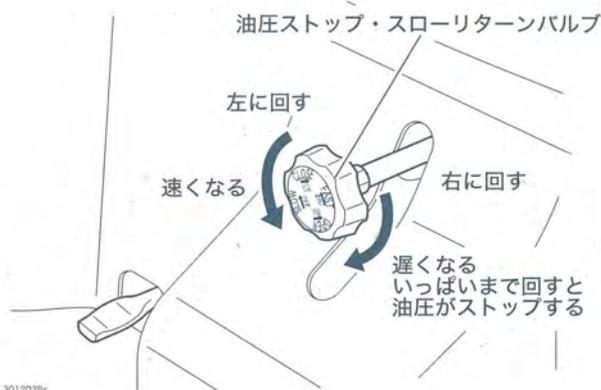
1. 作業機の降下速度調節のしかた

⚠ 警告

- 作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。万一、何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を起こすおそれがあります。

(1) 作業機を速く下ろす場合

油圧ストップ・スローリターンバルブを「左」方向に回してください。作業機は速く下ります。



(2) 作業機をゆっくり下ろす場合

油圧ストップ・スローリターンバルブを「右」方向に回してください。作業機の降下速度は遅くなります。「右」方向にいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は上がりません。

【重要】

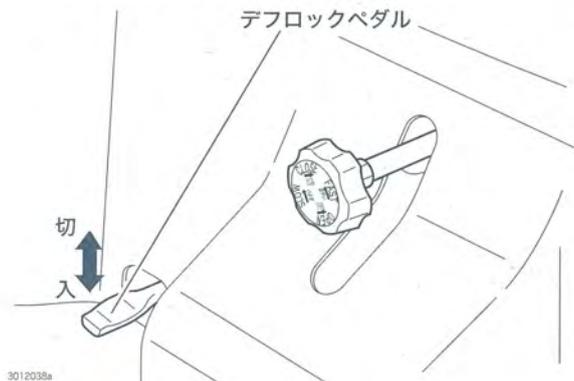
- 路上走行するときは、油圧ストップ・スローリターンバルブは開いたままで、作業機上下レバーを「上」位置にして、ストッパーでロックして走行してください。
- 油圧ストップ・スローリターンバルブをいっばいに締め込んで油圧をストップした状態で、作業機上下レバーを操作しないでください。油圧部品の破損を引き起こします。

2. デフロックの使いかた

⚠ 警告

- デフロックを入れた状態では旋回できません。必ず旋回前にデフロックを切ってください。
- 道路走行時は、デフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは、左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置です。湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用してください。ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。



〈使いかた〉

1. エンジン回転を下げてください。
2. デフロックペダルを踏み込んでください。左右の後輪がロックされます。
3. ロックを解除するときは、デフロックペダルから足を離してください。ロックは自動的に解除されます。

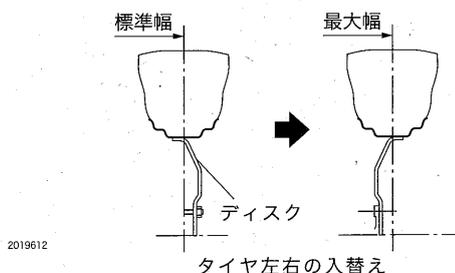
【参考】

- 抜けにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

3. 後輪車輪幅(輪距)の調節のしかた

作業の種類・作物の条間に合わせ、トラクターの車輪幅を調節することができます。また、傾斜地作業やけん引作業には、車輪幅を広げて使用してください。

1. 駐車ブレーキをかけ前輪に車止めをしてください。
2. ジャッキを使って車体を上げ、後輪を浮かせてください。
3. 調節は、タイヤ左右を入れ換えて輪距の調節をしてください。

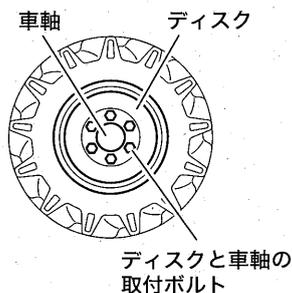


車輪幅(mm)

	標準幅	最大幅
GS122	889	1042

締付トルクについて(N・m{kgf・m})

ディスクと車軸の取付ボルト	前輪	44.1~55.9{4.5~5.7}
	後輪	116.7~148.1{11.9~15.1}



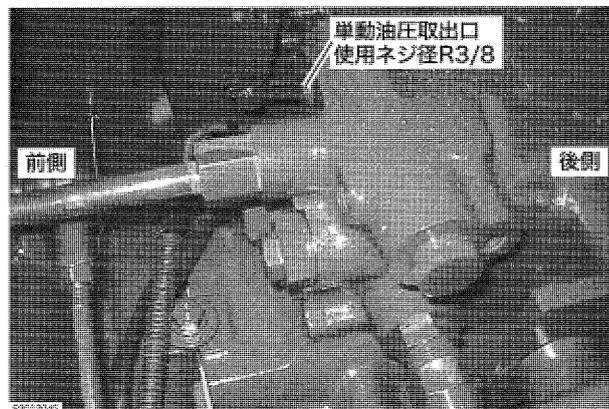
4. 油圧外部の取り出ししかた

⚠ 注意

- 油圧取出口のプラグを外す、または配管の取り付け、取り外しをするときは、必ず作業機を平坦な場所に接地して、エンジンを停止してください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。

(1) 単動シリンダーの場合

ダンプトレーラなどに使用します。ダンプトレーラなど単動シリンダーの場合、ドライバーシート下部のシリンダヘッド油圧取出口のプラグを外し、作業機側のホースを取り付けてください。



〈操作要領〉

1. 作業機上下レバーを「下げ」位置にしてください。
2. 油圧ストップ・スローリターンバルブを「閉」方向にいっぱい締めてください。
3. 単動シリンダーの油圧取出しプラグを外してください。
4. 作業機側の油圧ホースを取り付けてください。
5. 作業機上下レバーを操作して、作業機を動かします。

※ 作業要領および油圧作業機の詳しい取り付けかたは、各作業機の取扱説明書を参照してください。

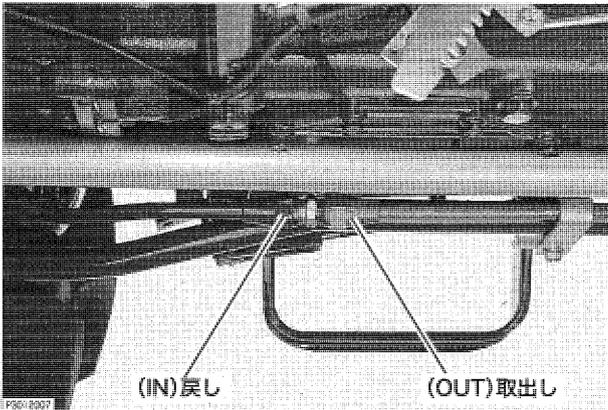
(2) 複動油圧取出口の場合

ローダなどに使用します。

トラクターの左ステップ下部にある外部油圧取出口を、作業機のパルプと配管してください。

前側…OUT (取出し)

後側…IN (戻し)



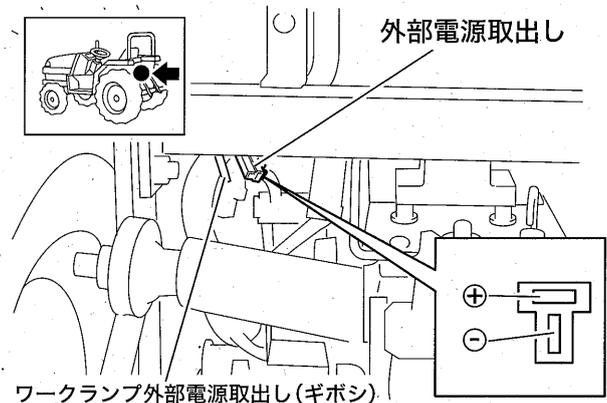
※ 作業要領および油圧作業機の詳しい取り付けかたは、各作業機の取扱説明書を参照してください。

5. 外部電源について**⚠ 注意**

- 外部電源を使用する場合は、他の灯火類と併用して長時間使用すると、バッテリー残量が減少することがあります

作業機への外部電源取り出しに使用します。

作業機への電源取り出しは、ハーネスのカプラへ差し込んでください。

**【重要】**

- 端子のプラス、マイナスを間違えたり、過負荷電流で使用しますと (最大: 12V20A) ヒューズが切れます。ヒューズが切れたときは、ヒューズボックス内のヒューズを交換してください。
(63ページ参照)

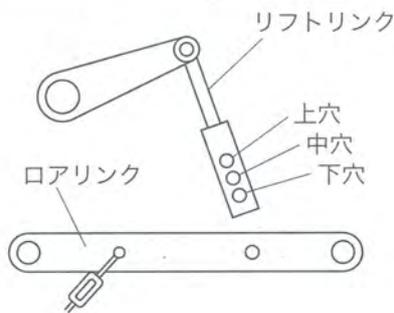
6. 3点リンクについて

このトラクターの3点リンクはJIS 0型です。

リフトリンクの調整

リフトリンクの穴は、作業機により下表の位置で使用してください。

リフトリンク	作業機
上・中・下穴	一般作業機
上 穴	標準ロータリー 標準クイックヒッチ

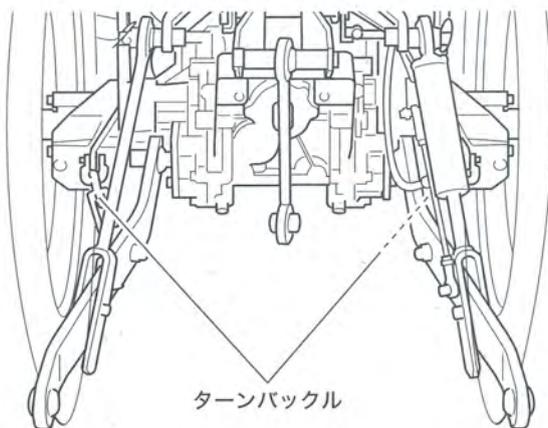


2019601

チェックチェーンの調整

チェックチェーンのターンバックルを回して、作業機の横ぶれを次のように調整してください。

1. プラウ、サブソイラなどの作業機は、作業機が左右に5～6cm動く程度に調整してください。ただし、作業機が横ぶれしてタイヤに当たらないよう確認してください。

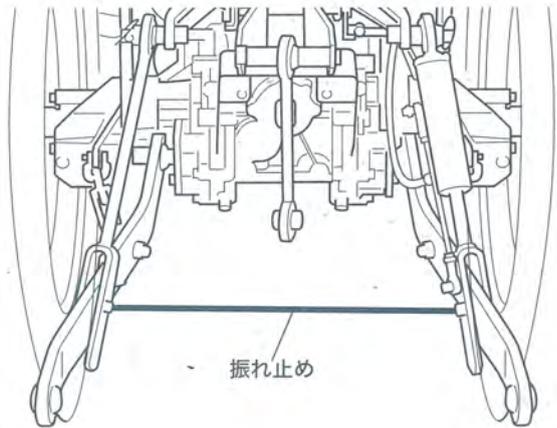


S3012064b

2. ロータリー・ハロー、モアなどの作業機は、作業機が左右に振れない程度に調整してください。

作業機を取り付けないとき

ロアリンクがタイヤに当たらないよう、振れ止めをしてください。



S3012064c

7. パワーステアリングについて

⚠ 注意

- エンジン回転中は、ハンドル操作が大変軽くなっていますので、急なハンドル操作はしないで、道路走行など慎重に行ってください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。

パワーステアリングは、エンジン回転中のみ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは、多少ハンドルが重くなるありますが異常ではありません。

【重要】

- ハンドルをいっぱい切るとリリーフ弁が働き、信号音がでます。短時間であればかまいませんが、この音が鳴ったままで運転しないでください。
- 走行しないでハンドルを切る（スエ切り）ことは、タイヤやリムなどの損傷を早めますので、必要なとき以外は操作しないでください。

8章 作業後の手入れと格納について

1. 作業後の手入れのしかた

使用後はトラクターを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各グリス注入部（グリスニップル）には、グリスアップを行ってください。

【重要】

- 電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。



2. 長期間使用しない場合の手入れ

⚠ 警告

- 格納する場合は、バッテリーを取り外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、電気配線被覆の劣化による漏電で火災事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 格納する場合は、クラッチペダルをロックしてください。守らないと、クラッチがきれなくなり事故をおこすおそれがあります。

トラクターの格納について

トラクターを長期間使用しない場合は、次の要領で整備し、格納してください。

1. 長期間保管の場合は、必ずキーを抜き取ってください。
2. 乾燥した風通しの良い所へ保管してください。
3. ウェイトなどは取り外し、作業機も取り外すか、降した状態にして、下には板を敷いてください。

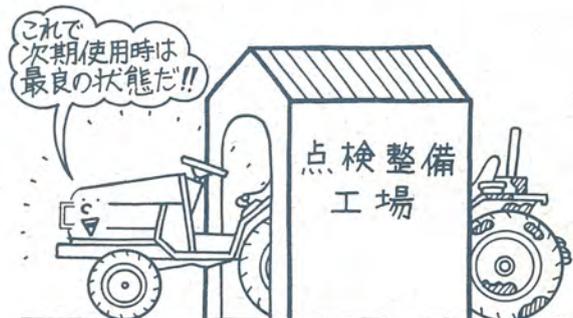
4. 外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。
5. 燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。油水分離器はOFF(閉の状態)にしてください。
6. バッテリーを完全充電し、本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。
7. 冷却水を抜き取ってください。
8. エアクリーナ・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。
9. クラッチは、クラッチの錆付きを防止するため、クラッチを踏み込んだ状態でクラッチペダルロックを掛けてください。(22ページ参照)
10. タイヤは、前・後輪とも、正規の空気圧にしてください。(64ページ参照)

【重要】

- バッテリーは、使わなくても自然放電します。1カ月に1度は充電器で完全充電してください。(57・58ページ参照)

保守整備契約制度

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。



2010389

1. 定期点検について

注意

点検・給油・オイル補給・注油・整備をする場合は、次の内容に注意し、周囲の安全を確認してから作業してください。

- ・ 交通の危険がなく、平坦で安定した場所に止める。
- ・ 作業機を降ろす。
- ・ 各変速レバー（リバーサ・主変速・副変速・PTO変速）を「N」（中立）にする。
- ・ 駐車ブレーキをかける。
- ・ エンジンを止めて、キーを抜く。
- ・ 前輪に車止めをする。

定期点検・整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと、農繁期には機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1年ごとに整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

特に、燃料パイプやパワーステアリングホース、ラジエータホースなどのゴムホース類や電気配線は2年ごとに交換し、常に機械を最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。

2. 廃油・不凍液処理について

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。

廃油の処分は、販売店にご相談ください。

不凍液の処理について

交換した不凍液は、河川や下水道、溝、空き地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。廃棄する場合は、販売店にご相談ください。

バッテリーの処理について

環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

3. 定期点検・整備一覧表

●下記の定期点検個所に従って、定期点検を行ってください。○印は点検です。

●専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた 特約店・販売店・JA にご相談ください。

点検・調節箇所	日常点検	アワメータ表示時間													参照ページ
		50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	300時間	350時間	400時間	450時間	500時間	550時間	600時間	それ以後	
エンジンオイル	○	交換			交換				交換				交換	200時間ごと	51
ミッションオイル	○	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	300時間ごと	52
フロントアクスルオイル	○	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	300時間ごと	54
エンジンオイルエレメントの交換		交換			交換				交換				交換	200時間ごと	51
ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)の交換		交換					交換						交換	300時間ごと	53
油水分離器の水抜き・洗浄 ※5		○										洗浄		500時間ごと	52
燃料フィルタエレメントの交換												交換		500時間ごと	52
冷却水	○	1年ごとに交換													54
エアークリーナエレメントの掃除・交換 ※4	○	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	50時間ごと	55
ラジエータスクリーン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	55
バッテリー状態点検および補充電	○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	57
燃料パイプおよび結合部の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	58
パワーステアリングのゴムホースの点検		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	58
燃料パイプ	○	2年ごとに交換													-
電気配線の点検 ※1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	59
各部グリスアップ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	59
冷却ファンベルトの点検	○	○	○		○		○		○		○		○	100時間ごと	62
ブレーキの点検・調整	○														60
クラッチの点検・調整	○														61
ハンドルの点検・調整	○														61
トーインの点検・調整															62
ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換	○														63
タイヤの点検	○														64

※1 50時間ごとに点検を基準としますが、使用時間が満たない場合は1年ごとに行ってください。

※2 交換の必要なものは、使用時間に達していなくても2年ごとに交換してください。

※3 パワーステアリングの高圧ホースは2年ごとに交換してください。

※4 エアークリーナのエレメントは、こまめに掃除してください。

※5 点検時間以前であっても油水分離器内のフロート(赤リング)がエレメント上端に達している場合、およびエレメントの汚れがひどい場合は、水抜き・洗浄を行ってください。

4. 推奨オイル・グリス・不凍液一覧表

種類	販売メーカー		
	ジャパンエナジー (JOMO)	新日本石油(ENEOS)	コスモ石油
燃料	ディーゼル軽油(JIS2級)		
エンジンオイル (API、CD級以上)	SAE10W-30		
グリス (マルチパーバスタイプ)	JOMOリゾニックス グリース EP2	エピノックグリース	ダイナマックスまたはダイナマックス EP
不凍液 (JIS K2234 2種 パーマネントタイプ)	キャストロール LLC-95		
ミッションオイル	シバウラHSTオイルまたはTF500		
フロントアクスルオイル フロントデフオイル	シバウラHSTオイルまたはTF500		

5. 給油・給水・一覧表

項目	GS122	
燃料 (ℓ)	27	
冷却水	ラジエータ (ℓ)	3.5
	サブタンク (ℓ)	0.4
エンジンオイル (ℓ)	2.7	
ミッションオイル (ℓ)	20	
フロントアクスル (ℓ)	0.5	
フロントデフ (ℓ)	1.0	

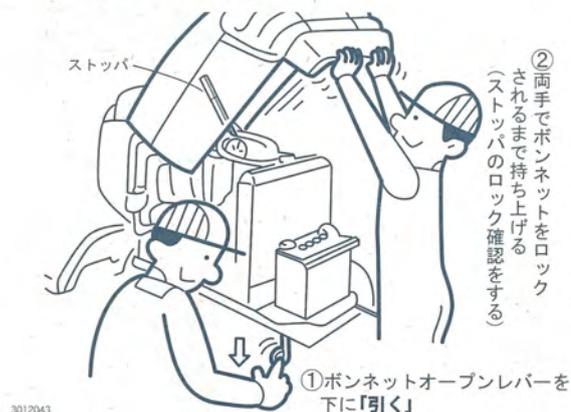
6. ボンネットの開閉のしかた

(1) ボンネットの開けかた

1. ボンネットオープンレバーを下に引くと、ボンネットのロックが解除されます。



2. 両手でボンネットを持ち上げると、スタンドは自動的にロックになります。



⚠ 注意

- ボンネットを開けて点検する場合は、ボンネットとフロントマスクが同時に開きますので、頭などぶつけないよう十分注意してください。

(2) ボンネットの閉めかた

1. ボンネットを少し持ち上げ、ロックを解除します。
2. ボンネットを降ろし、ボンネット前方上面を両手で「カチッ」と音がするまで強く押してください。
3. ボンネットを閉めた後、上に持ち上げて、ボンネットが確実にロックされているか確認してください。

⚠ 注意

- ボンネットを閉める場合は、ボンネットおよびスタンドで指をはさまないように十分注意してください。

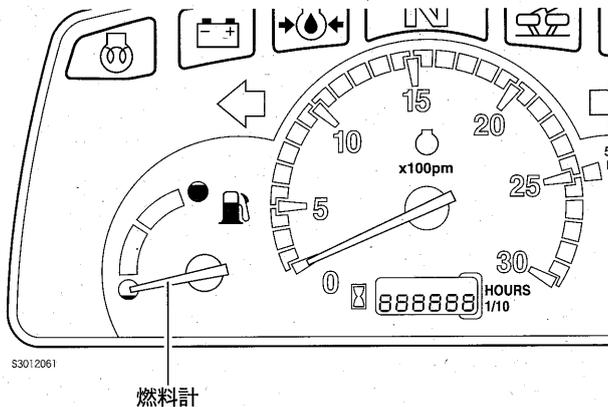
7. 燃料の点検・補給のしかた

⚠ 危険

- 燃料を補給した後は、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料は、きれいにふき取ってください。火災事故を引き起こすおそれがあります。

〈点検のしかた〉

キースイッチを「入」位置にして、燃料計を確認してください。



〈補給のしかた〉

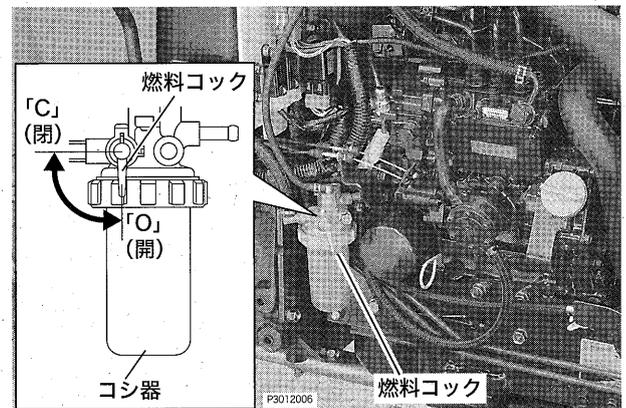
燃料キャップを外して、給油口から燃料を補給してください。



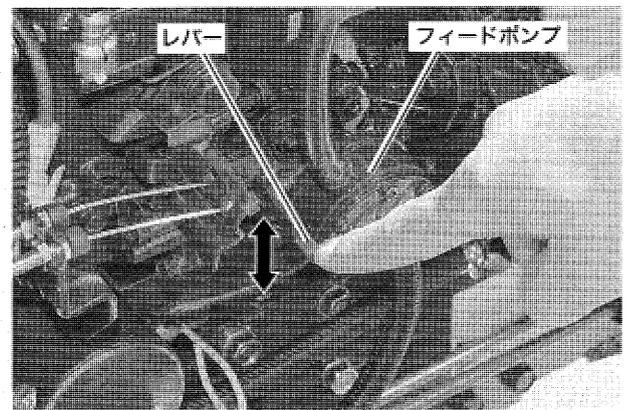
8. 燃料の空気(エア)抜きのしかた

燃料切れを起し、エンジンが停止したとき、または、点検整備で燃料コックのコシ器、燃料配管を外したときは、次の手順で燃料の空気(エア)抜きをしてください。

1. 燃料タンクに燃料を補給します。
2. 油水分離器の燃料コックを「O」(開の状態)の位置にします。



3. フィードポンプのプライミングレバーを上下に動かして、燃料を送ってください。(作動が重くなるまで押してください。)



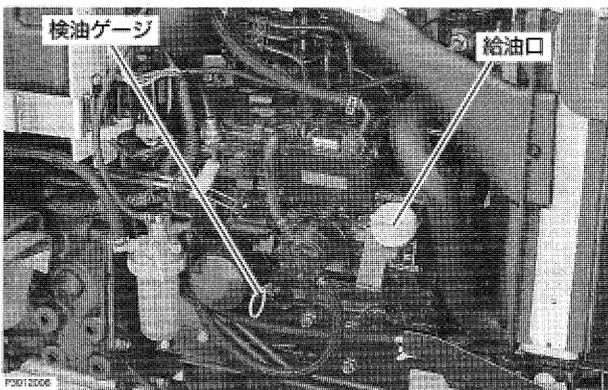
4. アクセルレバーを最高回転位置にし、エンジンを始動してください。
5. エンジンが始動すれば、空気(エア)抜きは完了です。

9. エンジンオイルの点検・交換のしかた

エンジンオイルは200時間ごとに、交換してください。

〈点検のしかた〉

1. エンジン部右側横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいてください。
2. 検油ゲージを差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べてください。
3. 不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。

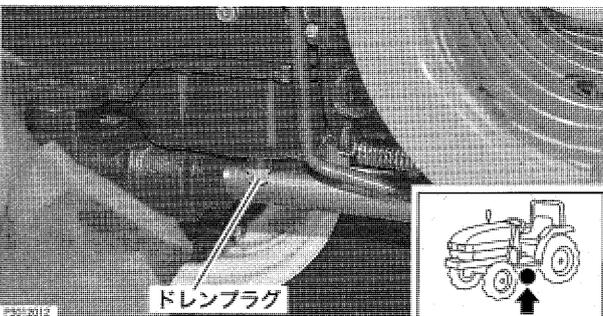


【重要】

- 点検するときは、トラクターを水平な場所に置いてください。傾いていると、正確な量が確認できません。
- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

〈交換のしかた〉

エンジン下部のドレンプラグから排油してください。給油はエンジンの給油口からしてください。

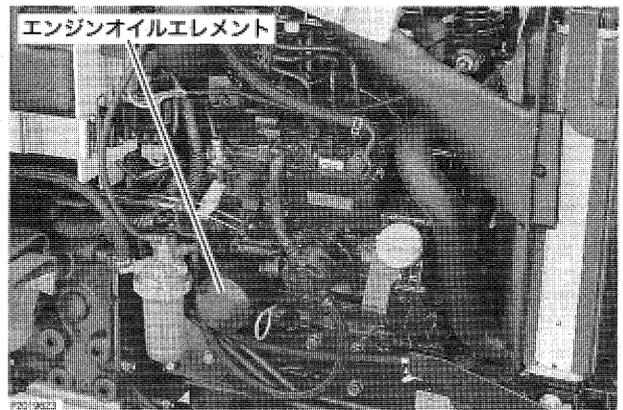


【参考】

- エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわけることが大切です。

10. エンジンオイルエレメントの交換のしかた

オイルエレメントは200時間ごとに、交換してください。



〈交換のしかた〉

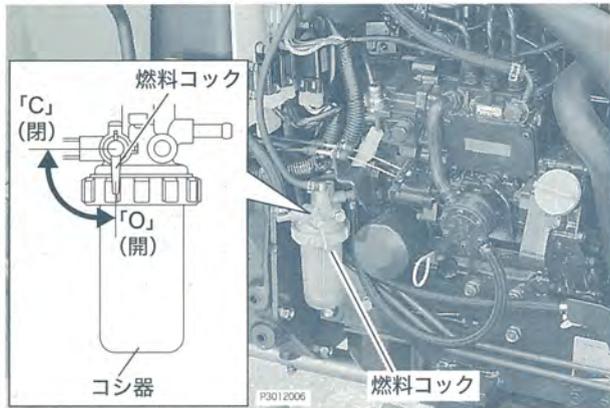
1. ボンネットを上げてください。
2. エンジンオイルを抜き取ってください。
(51ページ参照)
3. カートリッジをフィルタレンチで左側に回して外します。(反時計方向)
4. 新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、手で確実に取り付けてください。
5. エンジンオイルを給油してください。
6. エンジンを始動して油圧パイロットランプが消えるまで、エンジンを回してください。
7. 油圧パイロットランプが消えたら、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば、補給します。

11. 油水分離器の水抜き・清掃、燃料フィルタエレメントの交換のしかた

燃料フィルタエレメントは500時間ごとに、交換してください。

〈掃除のしかた〉

1. 燃料コックを「C」（閉の状態）位置にします。



2. 油水分離器のコシ器を外し、コシ器内の水・ゴミを取り除いてください。
3. コシ器の洗浄が終わったら元通りに取り付けてください。
4. 燃料のエア抜きを行ってください。
(50ページ参照)

〈交換のしかた〉

1. 燃料コックを「C」（閉の状態）位置にします。
2. 油水分離器のコシ器を外し、燃料フィルタエレメントを交換してください
3. 燃料フィルタエレメントの交換が終わったら、コシ器を元通りに取り付けてください。
4. 燃料のエア抜きを行ってください。
(50ページ参照)

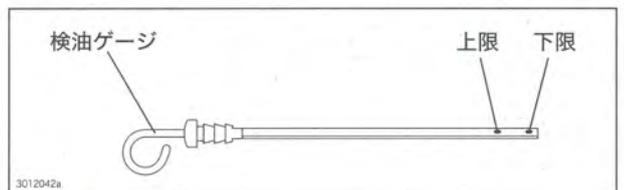
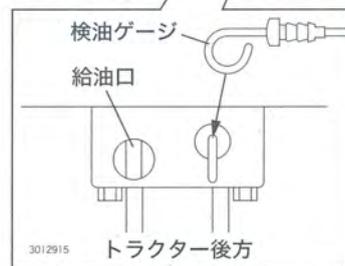
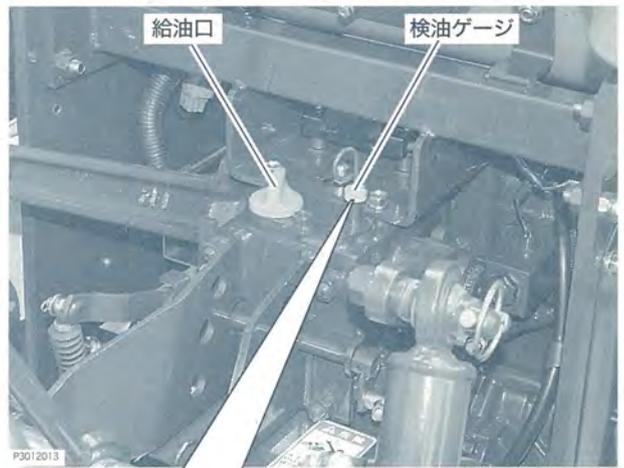
12. ミッションオイルの点検・交換のしかた

ミッションオイルは300時間ごとに、交換してください。

〈点検のしかた〉

ゲージの抜き差しは、下図のように検油ゲージを持つ部分が車体前後方向になるように行ってください。

1. 検油ゲージを抜いて、オイルが規定量あるか調べてください。
2. オイルが不足しているときは、給油口より規定量になるまでオイルを入れてください。

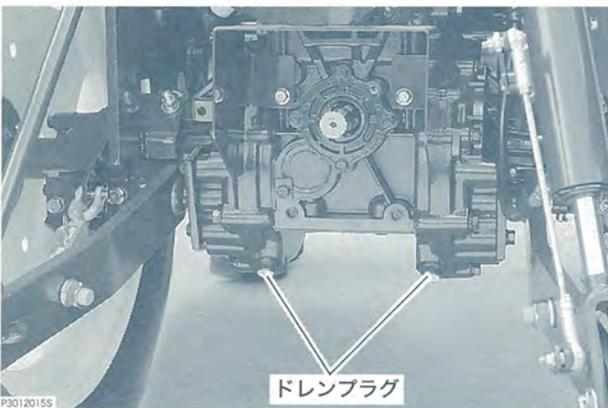


【重要】

- 点検するときは、作業機を降ろしトラクターを水平な場所に置いてください。傾いていると、正確な量が確認できません。
- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

〈交換のしかた〉

1. ミッションケース下部のドレンプラグ (3箇所) から排油してください。
2. 給油はトップリンク前の給油口から入れてください。



【参考】

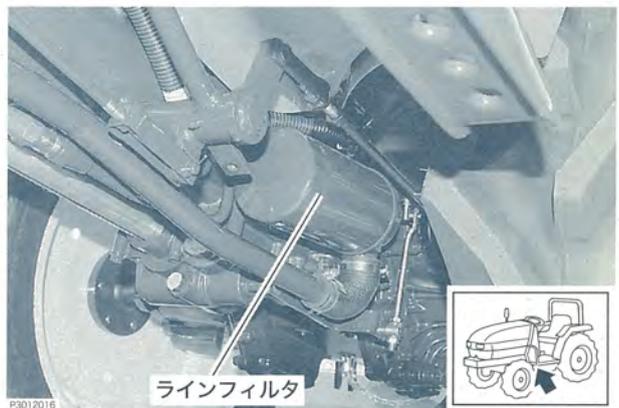
- ミッションオイルは、油圧オイル、パワステオイルと併用しています。
- ミッションオイルは、必ず純正 TF500 トランスミッションフルードまたはシバウラ HST オイルを使用してください。

13. ラインフィルタ (ミッションオイルエレメント) の交換のしかた

ミッションケース下部左側のラインフィルタは、カートリッジタイプになっています。300時間ごとに交換してください。

〈交換のしかた〉

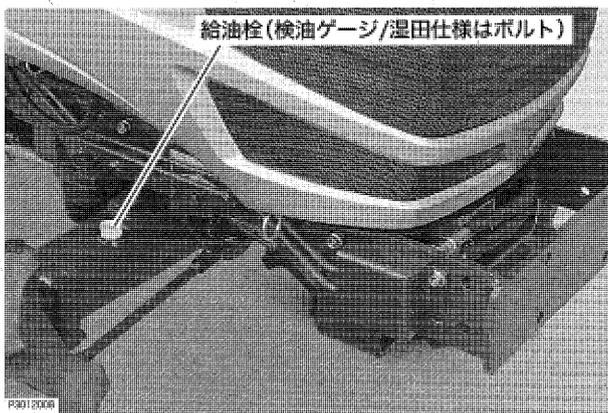
1. ミッションオイルを抜き取ってください。
(52ページ参照)
2. ラインフィルタのカートリッジをフィルタレンチで左側に回して外します。
3. 新しいラインフィルタの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、手で確実に取り付けてください。
4. ミッションオイルを給油してください。
5. エンジンを始動して、アイドルでオイルを循環させてください。
6. エンジンを停止して、検油ゲージでミッションオイルの量を点検し、不足していれば補給してください。



14. フロントアクスルオイルの点検・交換のしかた

〈点検のしかた〉

1. フロントアクスル右上部の給油栓（検油ゲージ/湿田仕様はボルト）を外してください。
2. 検油ゲージ（湿田仕様はボルト）の先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか（湿田仕様はボルト先端に付くか）調べてください。
3. 不足しているときは、給油口より検油ゲージの規定量まで入れてください。

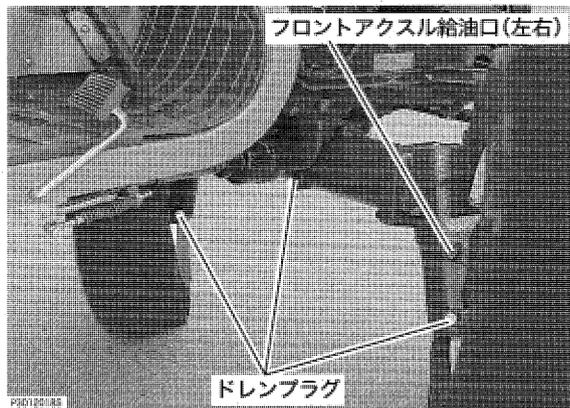


〈交換のしかた〉

1. フロントアクスル下部のドレンプラグ3箇所から排油してください。
2. 給油はフロントアクスル給油口のプラグを外し、油面が見えるまで給油してプラグを取り付けてください。再度フロントアクスル上部の給油口から規定量まで給油を行ってください。

【参考】

- フロントアクスルオイルは、TF500またはキャリアレッド80Bを使用してください。



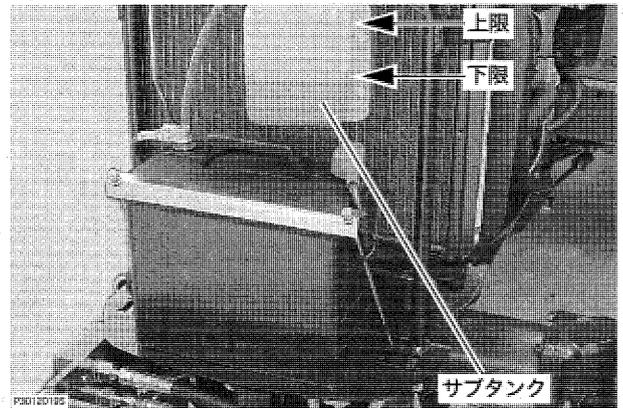
15. 冷却水の点検・補給・交換のしかた

⚠ 危険

- ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。開けると熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。エンジン停止後、じゅうぶんエンジンの冷えていることを確認して開けてください。

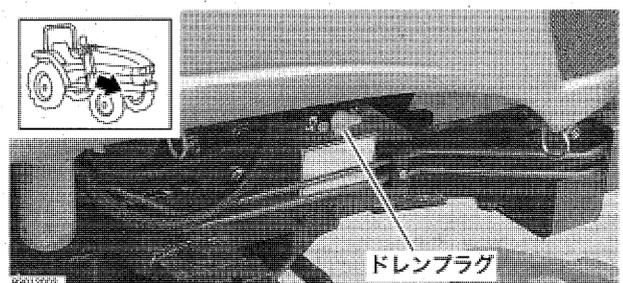
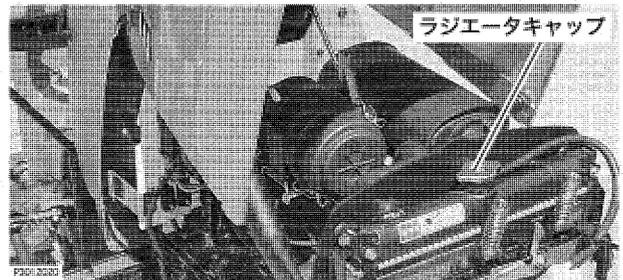
〈点検のしかた〉

1. ボンネットを開けてください。
2. サブタンク内の水が「上限」から「下限」の範囲にあるか調べてください。
3. 不足しているときは、サブタンクの給水口より清水を補給してください。



〈交換のしかた〉

1. ラジエータキャップとドレンプラグを外し、ラジエータ内の水を全て抜いてください。



- 水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ内部を洗ってください。

【参考】

- ラジエータ洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はいつそうきれいになります。
- ドレンプラグを取り付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれない程度まで入れてください。
 - ラジエータキャップを取り付けてください。
 - エンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。

【参考】

- 新しい冷却水と交換するときは、防錆液を入れることをお勧めします。防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。

〈不凍液の取扱いについて〉

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。出荷時にはヤンマーロイヤルフリーズ（オールシーズン）を使用しています。なお、不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯等においては下表を参照の上、安全な濃度で使用してください。

なお、工場出荷時の不凍液混合比率は、外気温度－25℃としております。

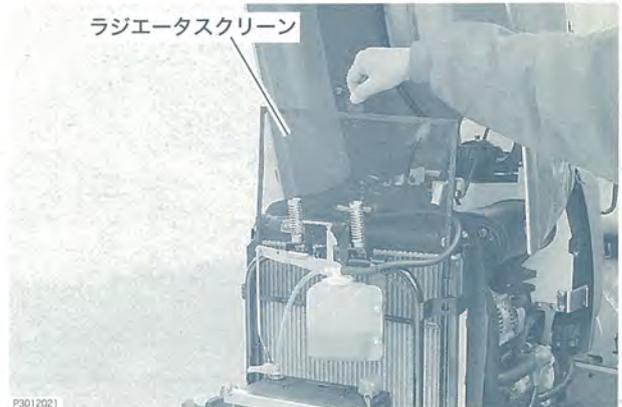
外気温度(℃)	5	-10	-15	-20	-25	-30	
比率							
	水(%)	82	73	66	61	55	49
	不凍液(%)	18	27	34	39	45	51

【重要】

- 混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱書の指示にしたがってください。
- 冷却水が自然に不足した場合には、清水だけを入れてください。（セミパーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。）
- 不凍液の有効期限は1年です。毎年新しい不凍液と交換してください。

16.ラジエータスクリーンとエアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。50時間ごとに掃除、300時間ごとに交換してください。規定時間になっていなくても、1年間でエレメントを交換してください。



〈ラジエータスクリーンの掃除のしかた〉

作業前、作業後に掃除してください。

- ボンネットを開けてください。
- ラジエータスクリーンを上げてください。
圧縮空気で、ワラクズやホコリを取り除いてください。

注意

- エアクリーナエレメントの掃除は作業前に行ってください。運転中、および運転直後は掃除をしないでください。
マフラーやエレメントフックが高温になってやけどをするおそれがあります。

〈エアクリーナエレメントの掃除のしかた〉

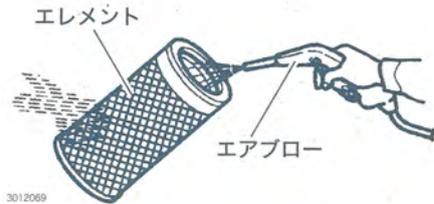
1. ボンネットを開けてください。



2. エアクリーナ固定バンドを外してください。
3. エアインテークの先端を、固定部から後方へに取り外してください。



4. エアクリーナのふたを取り外し、中のエレメントを抜き取ってください。
5. エレメントの内側から、圧縮空気を吹き付けるか、振動を与えて塵を落してください。フィンに傷を付けないように気をつけてください。



6. エアクリーナふたのTOPマークを上にして取り付け、エアインテークを元通りに取り付けてください。

[重要]

- エアクリーナのふたを取り付けるときは、「TOP」マークを上側に向けてください。

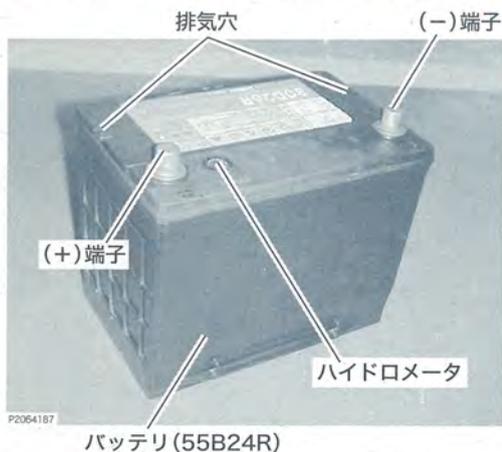
17. バッテリーの点検・整備のしかた

バッテリー液の点検・補給のしかた

本機に使用しているバッテリーは、液口栓がなく、補水の必要がないバッテリーです。(密閉形で、寿命まで補水不要タイプ)

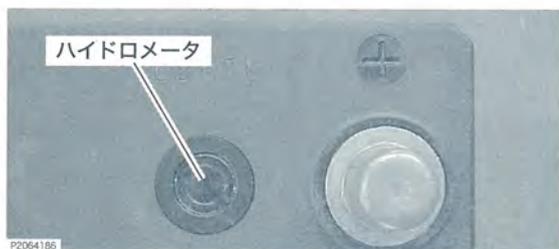
点検・整備をするときは、ハイドロメータでバッテリーの状態を確認してください。

ハイドロメータが「透明」になっているときは、電解液が減っている状態です。バッテリーの寿命と考えられますので、バッテリーを交換してください。



バッテリー(55B24R)

ハイドロメータから見える色は、バッテリーの状態を表しています。



ハイドロメータの色	充電状態	必要処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電が必要
透明	液減り	寿命です。エンジンの始動ができなくなります。バッテリーを交換してください。

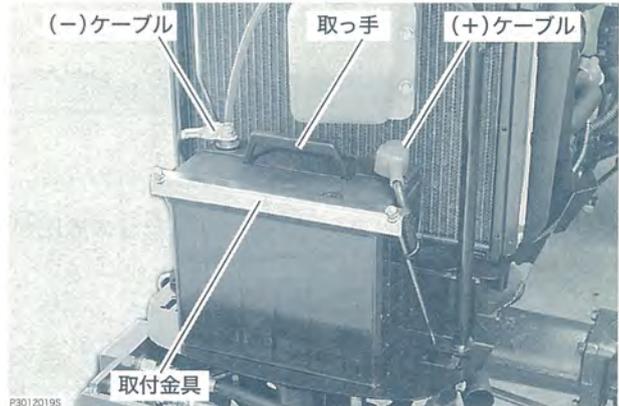
〈ハイドロメータを見るとき注意事項〉

- ハイドロメータは、機体が水平な状態で見てください。
- ハイドロメータは、真上から見てください。
- ハイドロメータの色が、「透明」または薄い「緑」のときは、念のために軽くたたいて、気泡が付いていないか確かめてから再度見てください。

バッテリーの取り外し・取り付けかた

〈取り外しかた〉

1. ボンネットを開けてください。(49ページ参照)
2. バッテリーを固定している取付金具を外してください。



3. バッテリーの(-)側のケーブルを外した後、(+)側のケーブルを外してください。
4. バッテリーの取っ手を起こし、持ち上げて取り外してください。

〈取り付けかた〉

1. バッテリーの(+)側のケーブルを取り付けた後、(-)側のケーブルを取り付けてください。
2. バッテリーを固定する取付金具を取り付けてください。

【重要】

- バッテリーケーブルを取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。
- バッテリーの(+)ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。

【重要】

- バッテリーを交換するときは、必ず下記の指定した型式のバッテリーを使用してください。

型 式	指定バッテリー	部品コードNo.
GS122	55B24R	389510770

補充電のしかた

⚠ 危険

- 急速充電はしないでください。バッテリーの内圧が上り、破裂するおそれがあります。

〈ハイドロメータの色が「黒」になっているときに行ってください。〉

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、下記の要領で補充電をしてください。

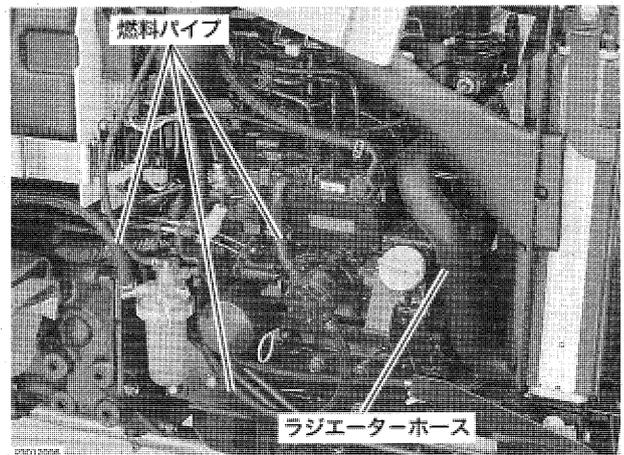
1. バッテリーを取り外してください。
2. バッテリーの (+) を充電器の (+) に、バッテリーの (-) を充電器の (-) に接続してください。
3. 3アンペア程度で8～10時間程度行ってください。
補充電完了の目安は、ハイドロメータの色が「緑」になっていることを確認できれば完了です。
4. バッテリーをトラクターに取り付けてください。

18.パイプ類の点検について

⚠ 危険

- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこします。異常があれば、お買い上げいただいた特約店、販売店、JAに依頼し、整備してください。火災を起こすおそれがあります。

燃料パイプ、パワーステアリングホース、ラジエーターホースなどが傷んでいないか点検してください。燃料もれ、水もれがないか、また締付ベルトがゆるんでないかも調べてください。傷んでいなくとも2年ごとに交換してください。



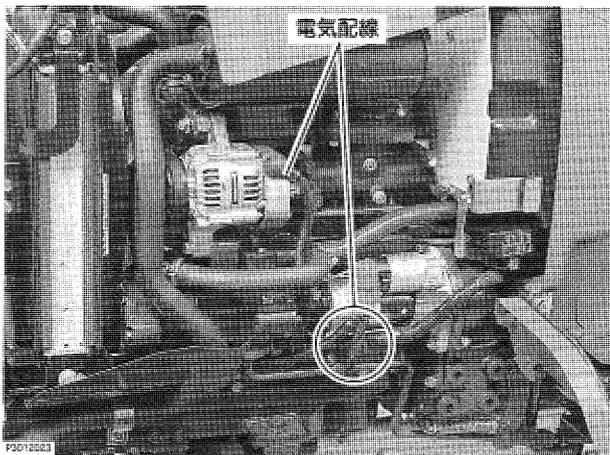
19. 電気配線の点検について

⚠ 警告

- ワイヤーハーネスおよびバッテリーケーブルが損傷していると、ショートを起こします。
- バッテリーや電気配線に付着しているワラクスやゴミは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。ショートして火災の原因になります。

ボンネットを上げ、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接触部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、お買い上げいただいた特約店・販売店・JAで修理してください。

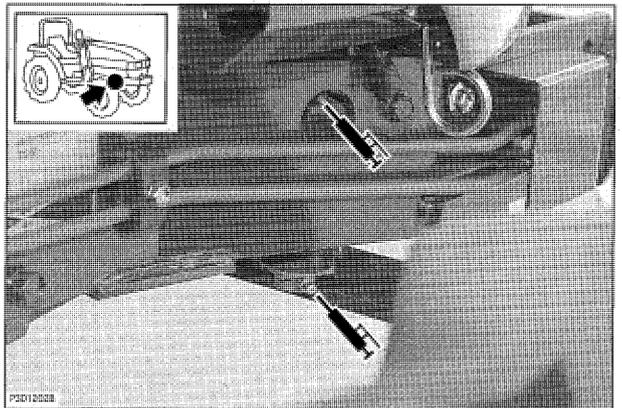
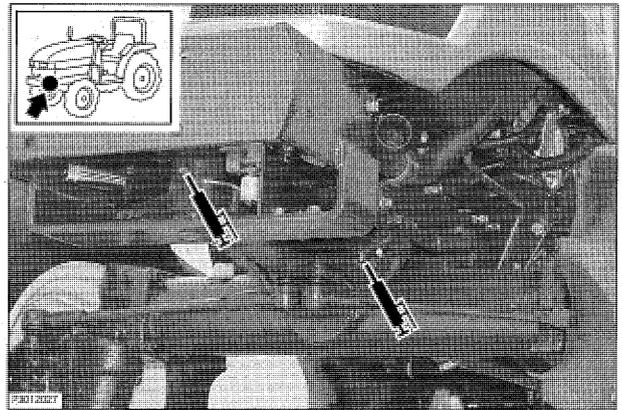
傷んでなくても使用時間50時間ごと、または1年ごとに点検を受けてください。



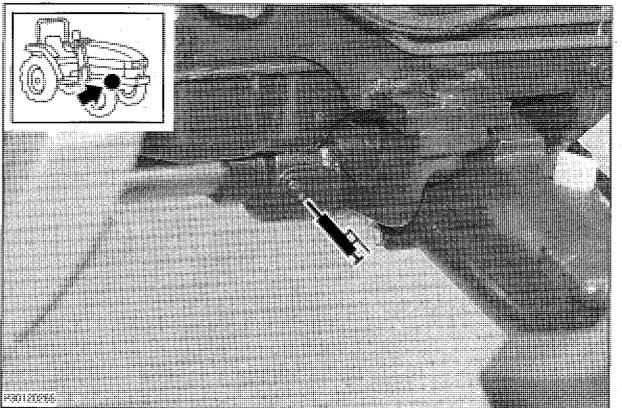
20. グリスアップ(注入)について

グリスアップは、50時間ごとに行っていただきますが、作業に入る前に、各箇所のグリスの点検を行い、必要ならばグリスアップしてください。また、代かき作業などで泥水に入った後は、作業終了後必ずグリスアップしてください。

パワステロッド



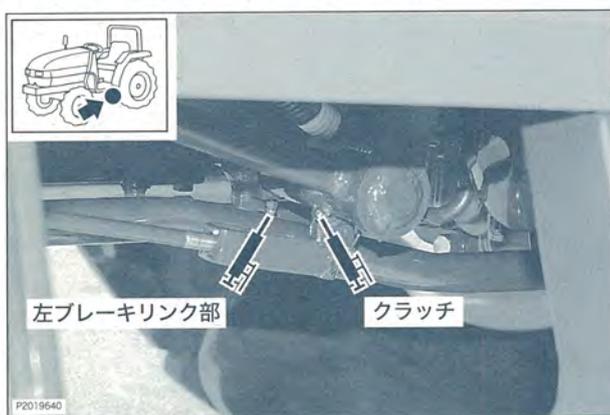
センターピンサポート



ブレーキペダルシャフト(左右)



クラッチペダル・ブレーキペダルシャフト



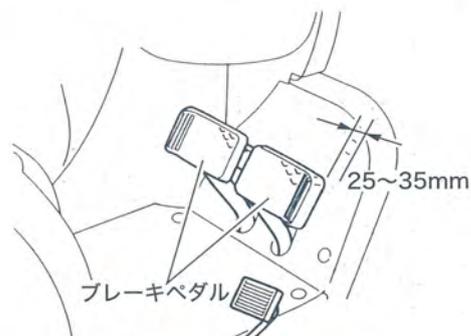
21. ブレーキの点検・調整のしかた

警告

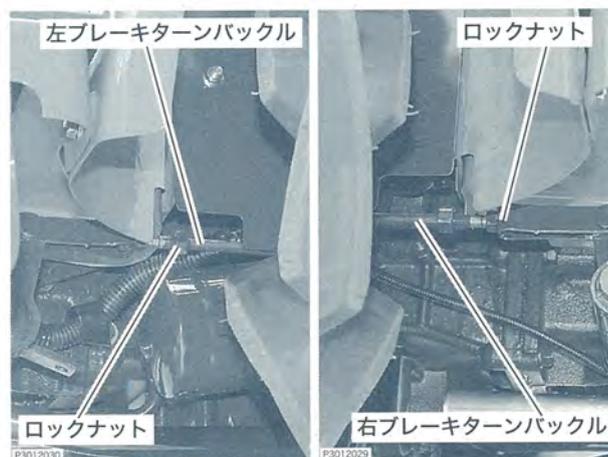
- ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように点検してください。事故を起こすおそれがあります。
- 左右のブレーキペダルの遊び量が異なると、ブレーキの片ぎきとなり、事故を起こすおそれがあります。常に、左右の遊び量が同一であるようにしてください。

〈点検のしかた〉

ブレーキペダルを踏み込んで、規定の遊び量(25~35mm)と左右が同時に効くかを調べてください。



2017209c



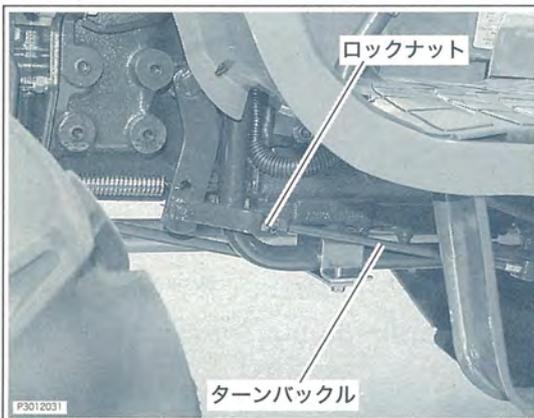
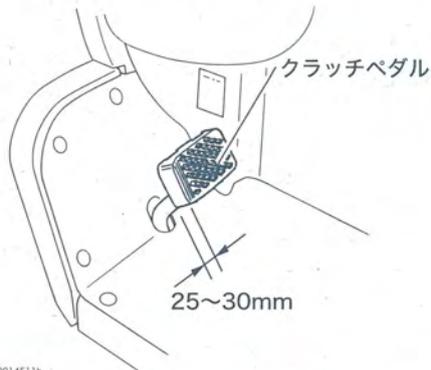
〈調整のしかた〉

1. 規定の遊び量でない場合は、左右の遊び量が25~35mmになるように、ロックナットをゆるめ、ターンバックルで調節してください。
2. 調節後はロックナットを確実に締め付けてください。また、ブレーキペダルをいっぱい踏込んだとき、駐車ブレーキロックが確実に作動することを確認してください。

22. クラッチの点検・調整のしかた

〈点検のしかた〉

クラッチペダルを踏込んで、規定の遊び量（25～30mm）があるかを調べてください。



〈調整のしかた〉

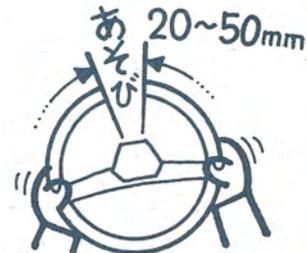
1. 規定の遊び量でない場合は、遊び量が 25～30mm になるように、ロックナットをゆるめ、ターンバックルで調節してください。
2. 調節後はロックナットを確実に締め付けてください。

23. ハンドルの点検のしかた

⚠ 警告

- ハンドルに著しくガタや遊びがないように、点検してください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。

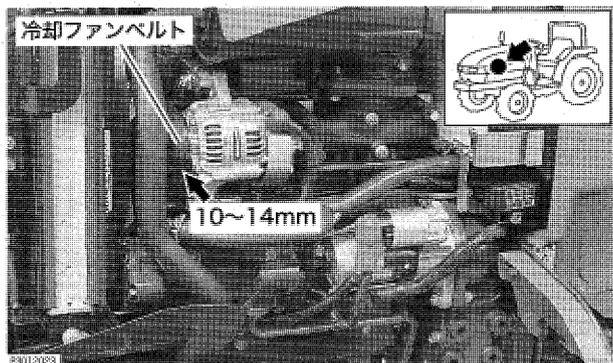
ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が 20～50mm の範囲にあるか調べてください。遊び量が適正でない場合、ハンドルが重くなったり、直進性が悪くなります。遊び量が適正でないときは、お買い上げいただいた特約店、販売店またはJAで整備してください。



24. 冷却ファンベルトの点検・調整のしかた

〈点検のしかた〉

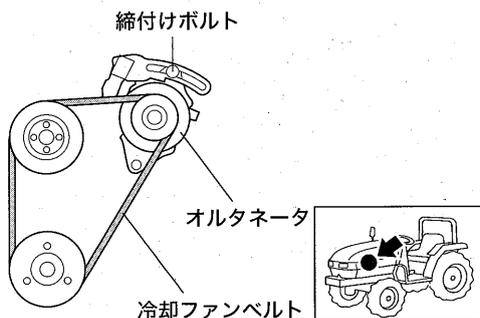
1. ボンネットを上げてください。



2. 冷却ファンベルトの中間を指で押さえ（押力10kgf）、ベルトのたわみ量が10～14mmであるか点検してください。
ベルトのたわみ量が適正でないときは、ベルトの張りを調節してください。
3. ベルトが損傷していないか点検してください。
ベルトが損傷しているときは、特約店、販売店またはJAで新しい冷却ファンベルトと交換してください。
4. ボンネットを元通りに閉めてください。

〈ベルトの張り調節のしかた〉

オルタネータ締付ボルトをゆるめ、オルタネータを移動して、冷却ファンベルトの張りを調節してください。



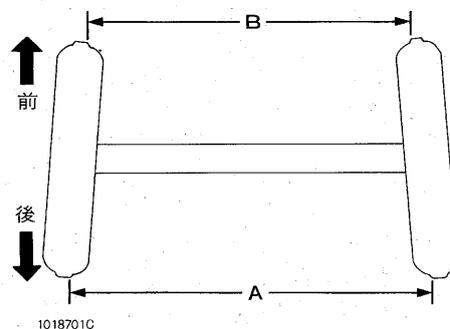
【重要】

- オルタネータをいっぱいまで移動してもベルトがスリップするときは、新しい冷却ファンベルトと交換してください。

25. トーインの点検・調整のしかた

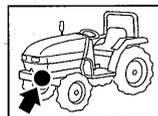
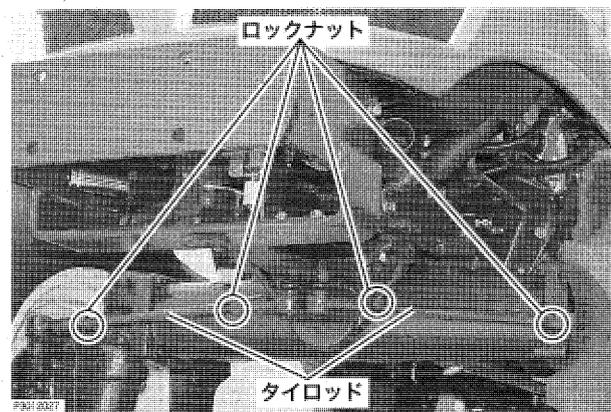
〈点検のしかた〉

トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり異常に振れることがあります。前輪のA寸法とB寸法を測定し、 $A - B$ が0～5mmであるか調べてください。規定寸法でない場合は、下記の調整をしてください。



〈調整のしかた〉

1. 左右のタイロッドエンドのロックナットをゆるめ、ネジ長さを調節してください。
2. トーインが0～5mmになったらロックナットを締め付けてください。



26. ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換のしかた

警告

- ヒューズおよびスローブローヒューズは必ず規定アンペアのものを使用してください。守らないと、火災につながる恐れがあります。

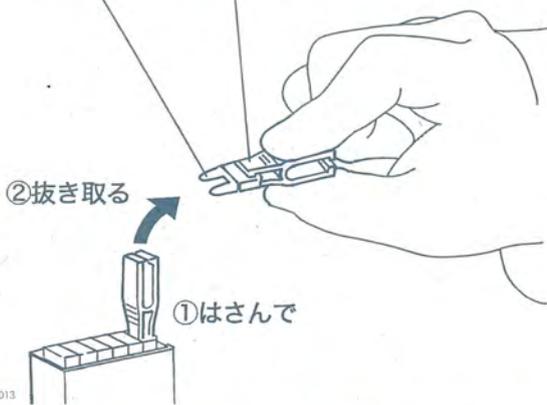
〈点検のしかた〉

1. ヒューズボックスのふたを開けてください。
2. ヒューズボックスの中よりヒューズばさみを取り外し、ヒューズを上部からはさみこんで、ヒューズを抜き取り点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。

【重要】

- 規定容量のヒューズと交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた特約店・販売店、またはJAで点検を受けてください。

ヒューズ ヒューズばさみ

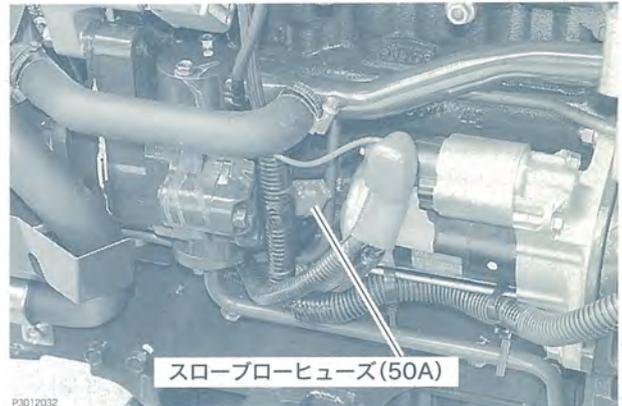


ヒューズボックス

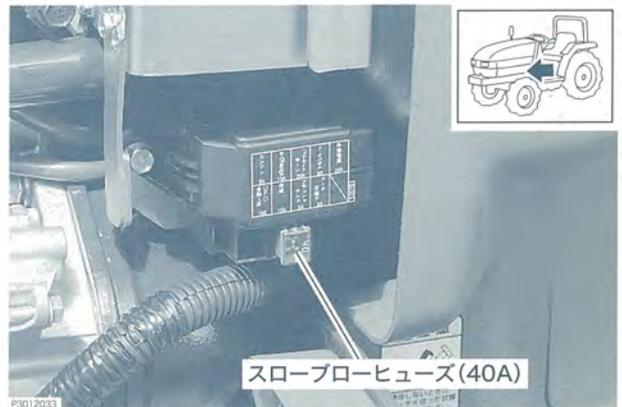
エンジン		ホーン ヘッドライト	メータパネル	外部電源
5A		20A	5A	20A
		ランプ フラッシュ	メータB端子	
		5A	5A	

S3012041

3. メインヒューズ（スローブローヒューズ）を点検してください。



P3012032



P3012033

【参考】

- スローブローヒューズはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したらお買い上げいただいた特約店・販売店、またはJAで点検を受けてください。

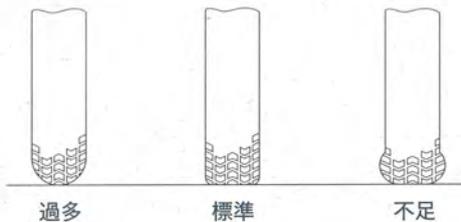
27. タイヤおよび車輪の点検のしかた

警告

- タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクターを運転しないでください。
ゆるんだまま走行すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

〈タイヤの点検のしかた〉

前・後輪の空気圧を標準空気圧に調整してください。
また、タイヤに亀裂や異常などがいないか確認してください。



タイヤの空気圧

単位:kpa(kgf/cm²)

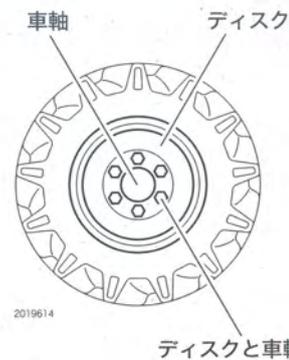
	標準空気圧	最大空気圧
前輪	150(1.5)	200(2.0)
後輪	100(1.0)	160(1.6)

〈車輪の取付ボルトの点検のしかた〉

各車輪のディスクと車軸の取付ボルトのゆるみを確認してください。ゆるみがあるときは、次表に従い増し締めしてください。

締付トルクについて(N・m{kgf・m})

ディスクと車軸の取付ボルト	前輪	44.1~55.9(4.5~5.7)
	後輪	116.7~148.1(11.9~15.1)



ボルト点検の際には、取付部のディスクに異常（亀裂など）がないことを確認してください。異常がある場合には、お買い上げいただいた特約店・販売店・JAへ連絡してください。

28. 排気ガスの色について

エンジン始動時は、正常でも黒色の排気ガスが出ますが、暖機運転を終了すれば通常は無色です。
気温の低い場合は、正常でも水蒸気で白く見えることがあります。

黒色、白色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、お買い上げいただいた特約店・販売店・JAで整備してください。

10章 不調診断のしかた

機械の調子が悪いときは、表を参考に診断をしてください。処置を行っても不調の場合は、購入先に連絡してください。

1. 計器盤の異常表示と処置のしかた

異常表示		点検個所	処置	参照ページ
エンジン油圧 パイロットランプ 	運転中にランプが点灯した	エンジンオイル量が不足していませんか。	不足しているときは、オイルを規定量まで補給してください。	51
		粘度の低いエンジンオイルを使用していませんか。	推奨オイルに交換してください。	48
チャージパイロットランプ 	運転中にランプが点灯した	ファンベルトの張り点検、または損傷の有無を点検してください。	ファンベルトの張り調整または交換してください。	62
水温計 	運転中に針がレッドゾーンを示した	エンジンのオーバーヒートのおそれがあります。	運転を中断して、エンジンをアイドリング状態にし、ボンネットを開け、エンジンを冷やしてください。	-

2. 主な故障現象

現象	この確認をしてください	処置	参照ページ
キースイッチを回してもスタータが回らない。	リバーサレバー・副変速レバーが「N」位置になっていますか。	リバーサレバー・副変速レバーを「N」位置に入れ、キースイッチを「始動」に回してください。	20
	バッテリー液は規定量入っていますか。または放電してはいませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電してください。	57
	バッテリー端子部のゆるみ外れ、腐食はありませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。	57
	スローブローヒューズが溶断していませんか。	特約店・販売店または JA へ連絡してください。	-
	スタータリレーヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。	63
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油し、エア抜きしてください。	50
	燃料コックが「C」位置になっていませんか。	燃料コックを「O」位置にしてください。	32
	ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。	63
エンジンが不規則に回転する	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。	52
	油水分離器が目詰まりしていませんか。	洗浄、または交換してください。	52

現象	この確認をしてください	処置	参照ページ
エンジンが過熱する(オーバーヒート)。	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。	54
	ファンベルトはゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。	62
	ラジエータフィンが目詰まりしていませんか。	清掃してください。	55
	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。	51
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。	-
エンジンの力が出ない。	エアクリーナが目詰まりしていませんか。	エアクリーナを点検してください。	55
運転中にラジエータ水量ランプが点灯した。	サブタンクの冷却水量がすくなくなっていないですか。	冷却水の補給をしてください。	54
運転中にエンジン油圧ランプが点灯した。	エンジンオイル量が少なくなっていないですか。	オイルを規定量まで補給してください。	51
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適性粘度のオイルと交換してください。	48
サーモスタートランプが点灯しない。	ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。	63
運転中にチャージランプが点灯した。	ファンベルトのゆるみ、または破損はありませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。	62
作業機が上がらない。	油圧ストップバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップバルブを「開」にしてください。	24
	トランスミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。	52
	オイルフィルタが目詰まりしていませんか。	交換してください。	53
作業機が下がらない。	油圧ストップバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップバルブを「開」にしてください。	41
	オートワイヤの調節不良ではありませんか。	オートワイヤを調節してください。	-
ヘッドライトが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	-
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	63
	ソケットから配線が外れていませんか。	接続端子を点検してください。	-
	接触が悪くありませんか。	接続端子を点検してください。	-
フラッシュランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	-
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	63
	接触が悪くありませんか。	接続端子を点検してください。	-
ランプ類が点灯しない。	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	63
	バッテリーが放電していませんか。	充電してください。	58
ホーンが鳴らない。	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	63

1. 用語解説

あ行

アタッチメント

トラクターに後付けする部品。

安全スイッチ

変速レバーが「N」位置にないと、エンジンがかからないようにするためのスイッチ。

安全フレーム

トラクター転倒時、作業者を保護するための国の検査に合格したフレーム。

オルタネータ

エンジンからの動力で電気を発生させる装置。

か行

クイックヒッチ

トラクターに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ。

さ行

作業機上下レバー

作業機を上昇、下降させるレバー。

3点リンク

トラクターに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク。

サーモスタート

寒冷時、エンジンの始動性を良くするための補助装置。

軸距

前・後タイヤの中心間の距離。

た行

チェックチェーン

トラクターに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン。

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の上部をつり上げているリンク。

ドライブシャフト

トラクターの動力を作業機へ伝達するための軸。

は行

PTO(パワー テイク オフ)

作業機の動力を取り出すための軸。

や行

油圧ストップ・スローリターンバルブ(油圧ストップバルブ)

作業機の下降スピードを調整するバルブ。

揚力

トラクターが作業機を上昇させるための力。

ら行

リフトアーム

トラクターの作業機を上げるためのアーム。

リフトリンク

リフトアームとロアリンクを連結しているリンク。

リリース弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁。

輪距

左右のタイヤ中心間の距離。

リンクヒッチ

トップリンクを取り付けるヒッチ。

ロアリンク

作業機を装着する3点のリンクの内、作業機をつり下げている下部のリンクで左右1本ずつある。

2. トラクター仕様

型式名		GS122		
駆動方式		2-4 輪駆動切替		
機体寸法	全長(3P付き)	(mm)	2706	
	全幅	(mm)	1240	
	全高	(mm)	1840(1225)	
	最低地上高	(mm)	260	
機体質量(重量)		(kg)	750	
エンジン	型式名		3TNV76	
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル	
	総排気量	(L{cc})	1.115{1115}	
	出力/回転速度(kW{PS})/rpm		16.2(22)/2800	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量	(L)	27	
走行部	タイヤ	前輪	20.5×8.00-100	
		後輪	31.0×13.50-15	
	軸距		(mm)	1380
	輪距	前輪	(mm)	950
		後輪	(mm)	889
	クラッチ形式			乾式単板
	ブレーキ形式			湿式ディスク
	かじ取り方式			パワーステアリング
	変速方式			コンスタント
	変速段数		(段)	F8・R8
	走行速度	前進 (最高速度:エンジン最高回転)	(km/h)	0.63~11.51
		後進	(km/h)	0.62~10.50
PTO	回転速度	(rpm)	580・831・1199	
	軸径	(mm)	35	
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール	
	装着方式		特3P	
	最大揚力	(N{kgf})	9810(1000)	
安全フレーム	種類		2柱式安全フレーム	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

3. 車速・PTO回転

(1) 車速

(km/h)

	速度段	主変速	副変速	GS122
前進	1	1	1	0.63
	2	2	1	0.99
	3	3	1	1.40
	4	4	1	2.13
	5	1	2	3.17
	6	2	2	4.97
	7	3	2	7.01
	8	4	2	10.65
	最高速度:エンジン最高回転			
後進	1	1	1	0.62
	2	2	1	0.98
	3	3	1	1.38
	4	4	1	2.10
	5	1	2	3.12
	6	2	2	4.90
	7	3	2	6.91
	8	4	2	10.50

(2) PTO回転数

(rpm)

	GS122
1速	580
2速	831
3速	1199





石川島芝浦機械株式会社

グリーン事業部

本部

〒326-0842 栃木県足利市今福町 907-2 TEL 0284 (21)9130 FAX 0284 (21)5227

業務

〒390-8714 長野県松本市石芝 1-1-1 TEL 0263 (25)4502 FAX 0263 (26)7517

北海道事務所

北関東事務所

東海事務所

東北事務所

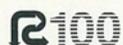
西関東事務所

岡山事務所

関東統括事務所

松本事務所

九州事務所



古紙配合率100%再生紙を使用しています。